

第1章 計画の策定にあたって

1. 計画策定の背景と趣旨

子どもが読書をすることの必要性や重要性は、児童生徒をはじめ保護者など大人も認識はしているものの、なかなか習慣化することがむずかしく、また「時間」に対する捉え方や過ごし方も変化してきており、生活時間の速度が速くなっています。



子どもたちも、就学後は学校生活、部活動、塾、習い事など時間に余裕がない生活を送っています。とりわけ、昨今のSNSの普及は、子どもの生活に大きく影響しています。

本市では、市立図書館や、小中学校、幼稚園、保育園などで児童図書の充実や、ボランティア団体による読み聞かせなど、各種の取り組みをしていますが、**読書習慣の定着**に向けては



さらに改善や工夫に努める必要があります。



平成21年度に策定した「岡谷市子ども読書活動推進計画」から10年が経過し、社会情勢も大きく変化してきています。時間に余裕がない今の時代だからこそ「読書」をすることにより心のゆとりを取り戻し、ことばや感性を豊かに育むため、

課題解決に向けた基本目標や方針を見直すなかで、未来を担う子ども達の糧となる新しい子ども読書活動推進計画を策定するものです。

2. 計画の実施期間

この計画の実施期間は、2019年度～2023年度までの5年間とします。

3. 計画の対象

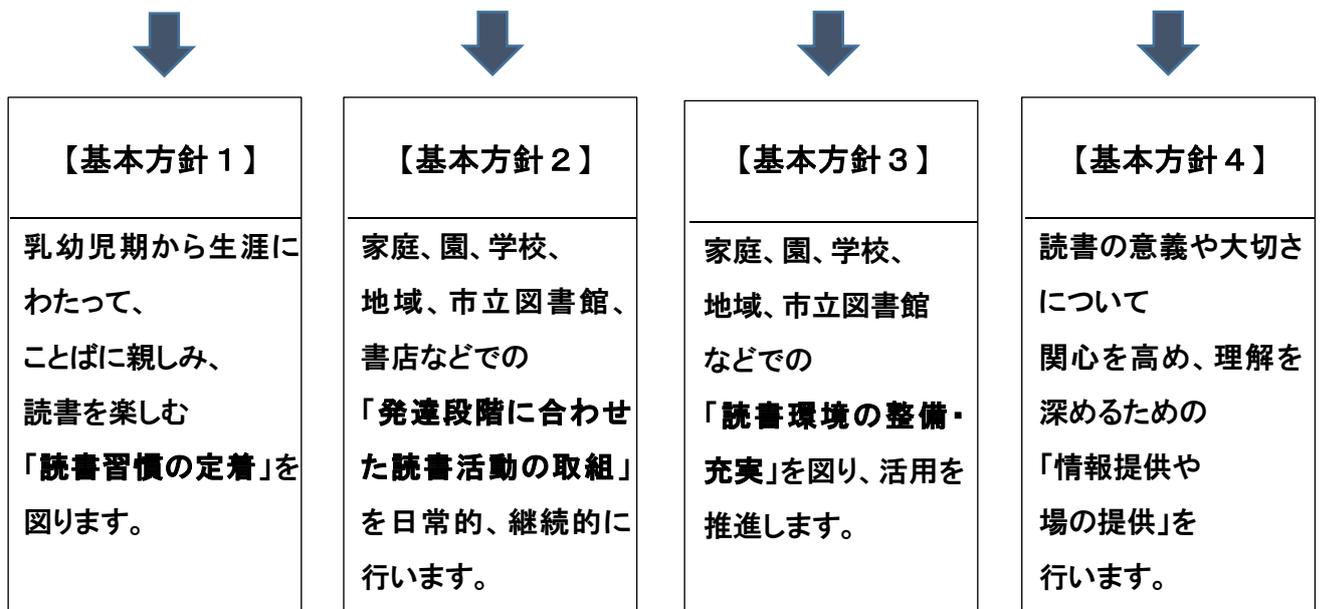
この計画における「子ども」の定義は、0歳から18歳とします。

子どものほか、家庭、園、学校、図書館、公民館・こどものくに、読書活動団体などを対象とします。

4. 計画の体系

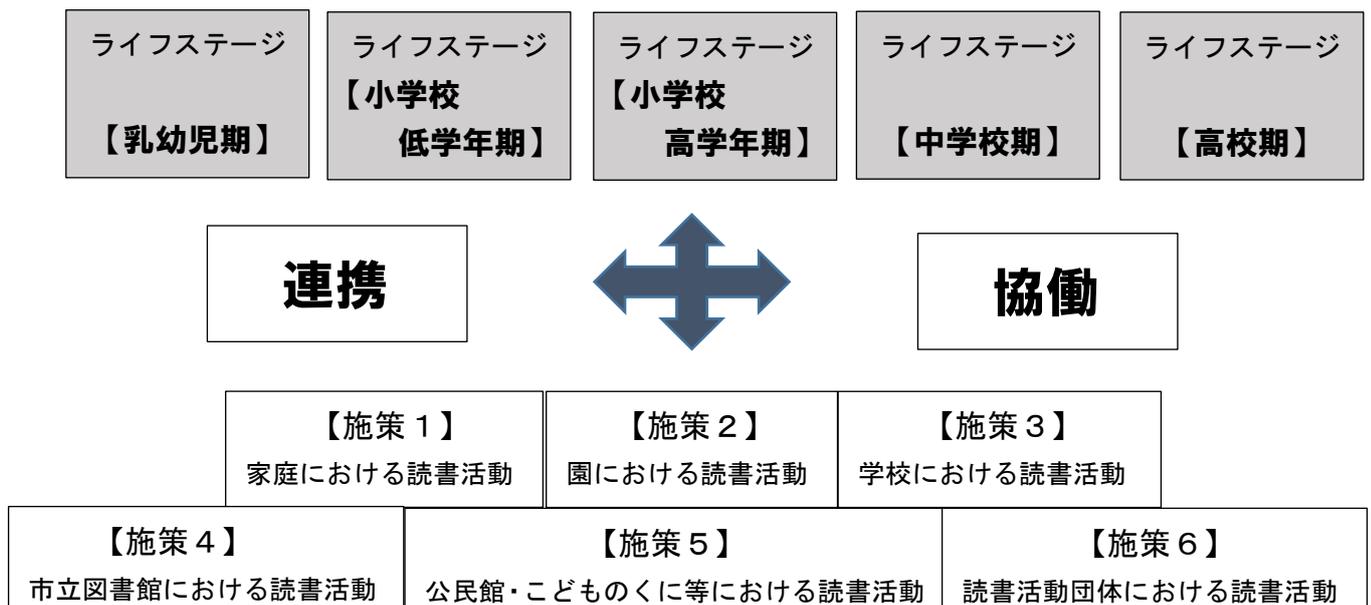
基本目標

読書を楽しみながら、ことばを育み、豊かな感性と考える力をつけることをめざします。



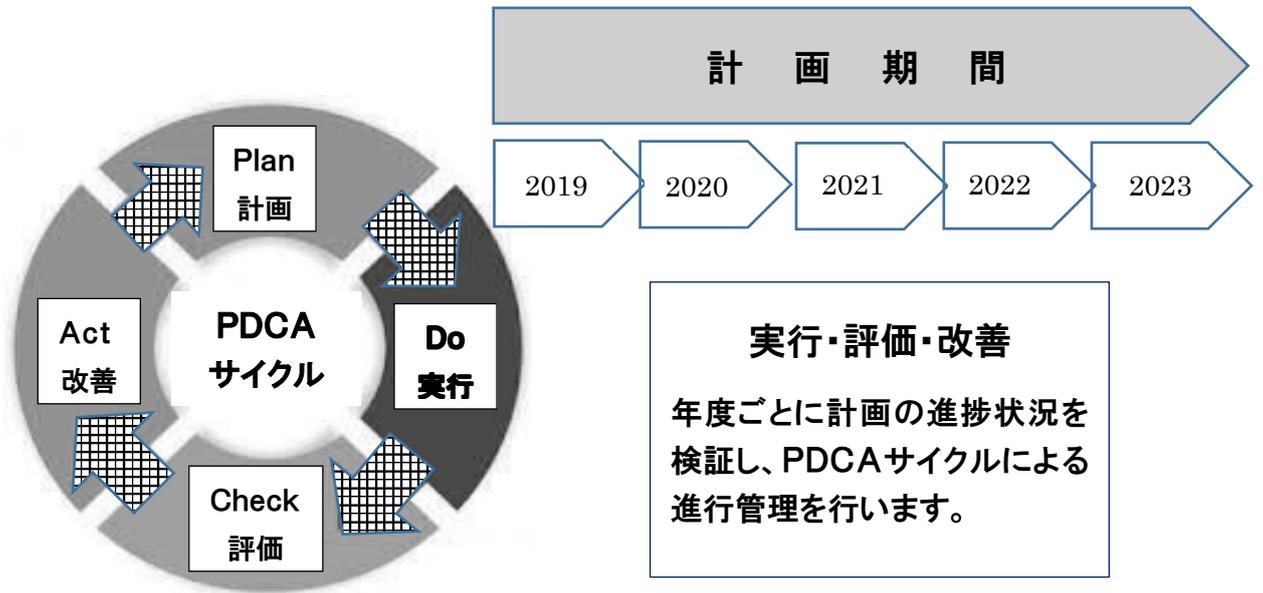
基本目標・基本方針を受けた実践

「成長樹(期)子育て実践ポイント」におけるライフステージと各施策



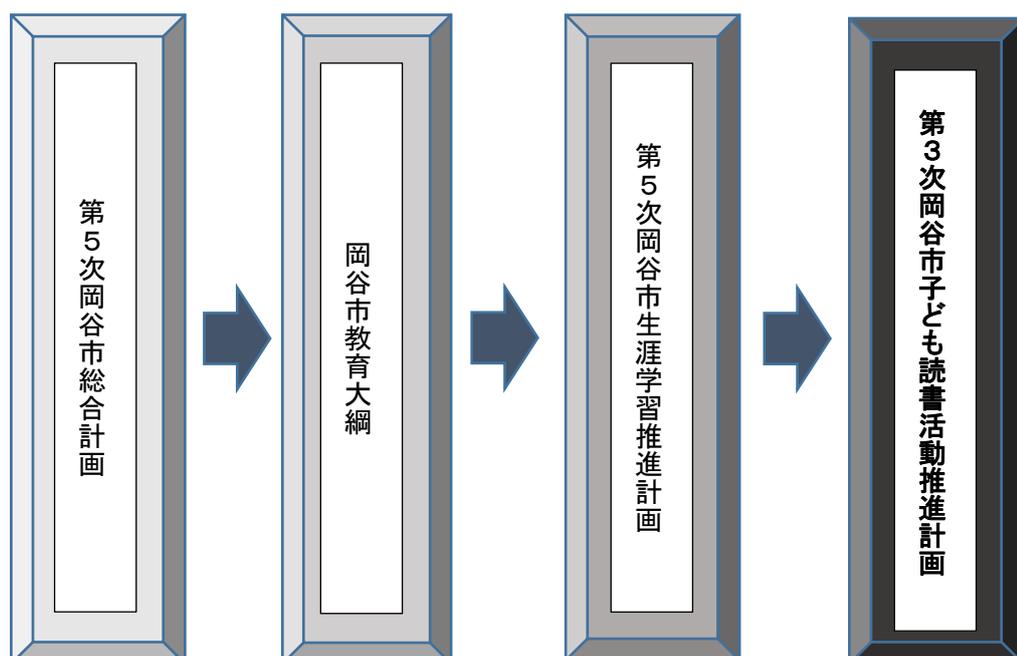
5. 計画の進行管理

PDCAサイクルにより実施します。



6. 計画の位置づけ

第5次岡谷市総合計画の基本目標「未来の担い手を育み、生涯を通じて学ぶまち」のもと、関連計画に掲げる方針との整合性を図ります。

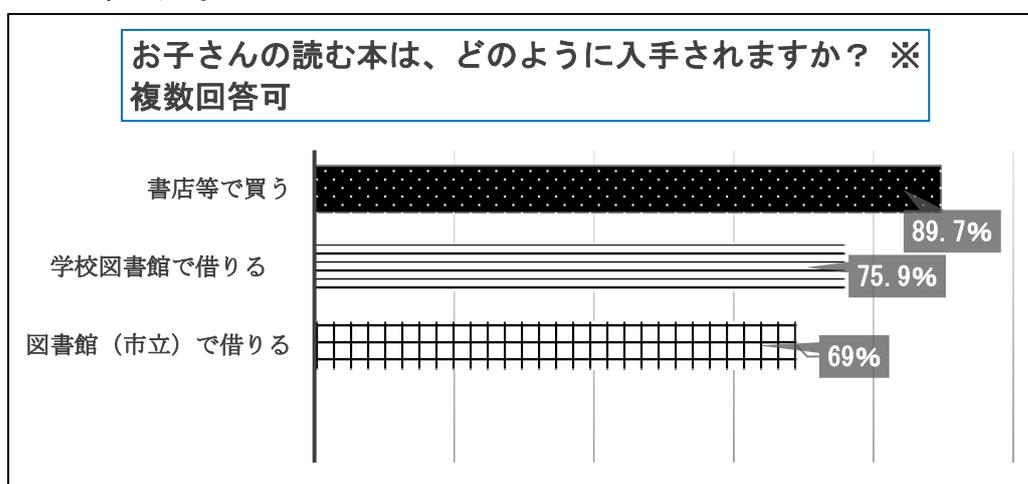


第2章 計画の取組

1. 子どもの読書活動の現状

(1) 第3次計画策定に向けて、各家庭における読書に関する現状と傾向を把握するため、2018年8月「子どもと家庭における読書に関するアンケート」をPTA図書委員会委員（小学生の保護者）及び市内A中学校の図書委員の保護者を対象に実施しました。

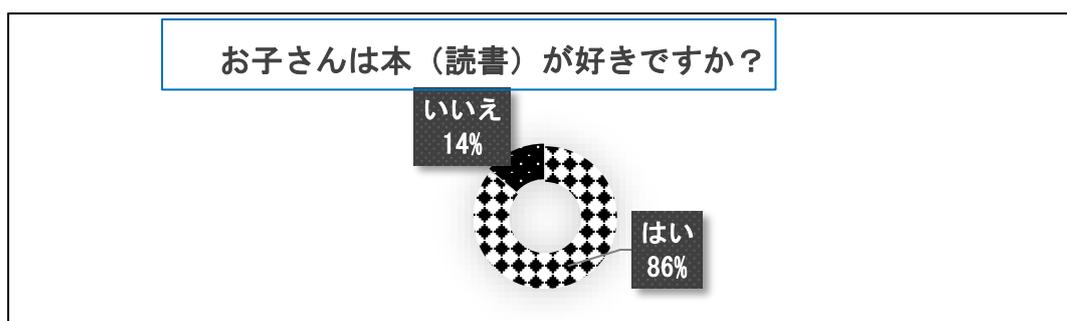
ア. 本の入手について

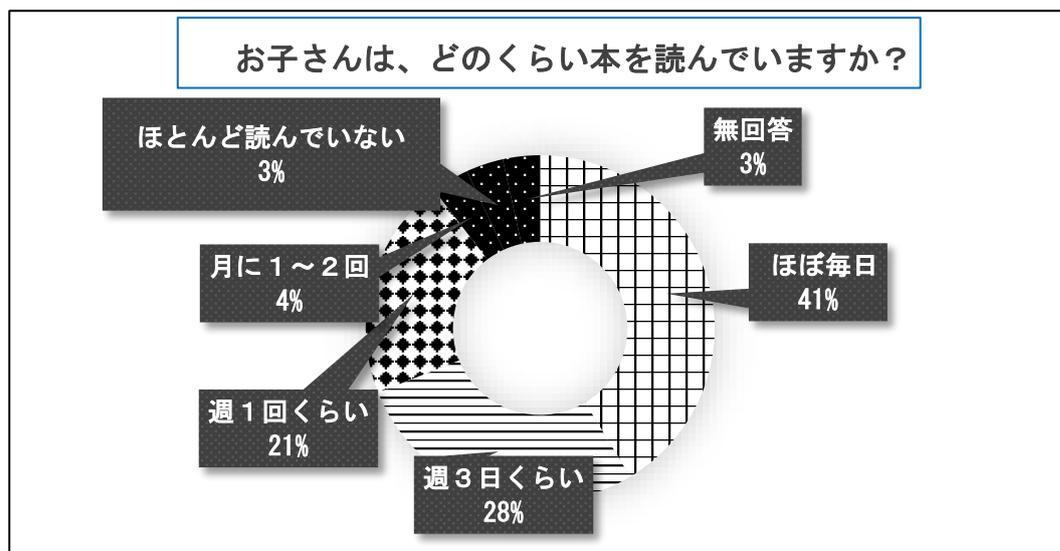


(岡谷市の現状)

昨今の経済状況から貧困問題なども取り沙汰されていますがアンケートによると、「書店等で買う」が約9割を占めていることから、保護者の本に対する認識は、経済面の負担としては感じられていないものと推察できます。今後の施策展開として、行政だけでなく書店との協働なども視野に入れ、子どもの読書環境の拡充に努める必要があります。

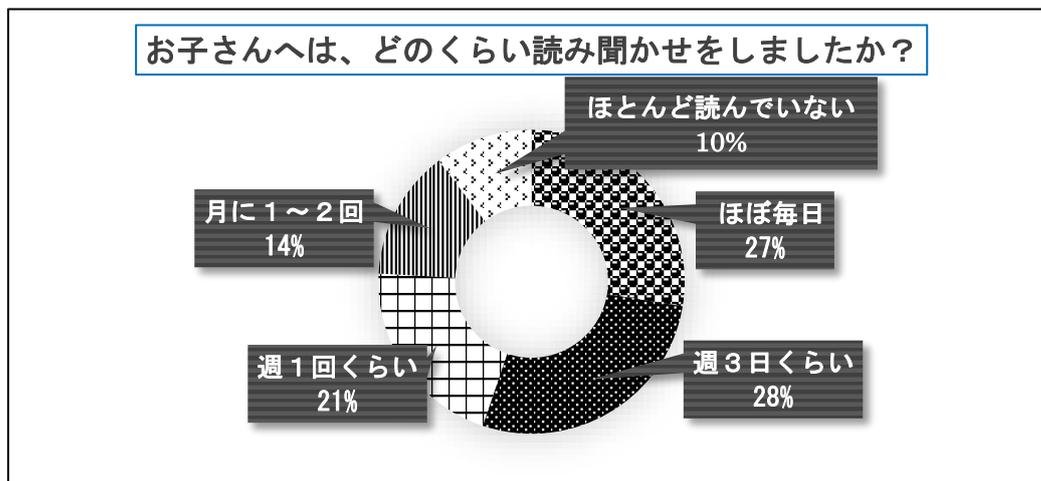
イ. 読書習慣について





(岡谷市の現状)
 アンケートによると自分の子どもが「本が好き」と9割近くの保護者が回答しています。しかしながら、読書時間については「ほぼ毎日」が41%にとどまっていることから、「5分間読書」などを推奨し、毎日少しずつでも読むことが読書習慣に繋がることを伝えていく必要があります。

ウ. 家庭における読書活動



(岡谷市の現状)
 「お子さんは本が好き」とあると9割の保護者が回答し、その保護者へ「読み聞かせ」について再質問をしたところ、「ほぼ毎日」は27%、「週3日」は28%、「週1日」は21%であり、約8割の保護者は週単位で読み聞かせをする時間を持っていることが分かりました。読み聞かせの習慣は、子どもを「本好き」にする大切なものと分かります。

お子さんが本を読むために工夫していることや意識していること
※複数回答可としたもの

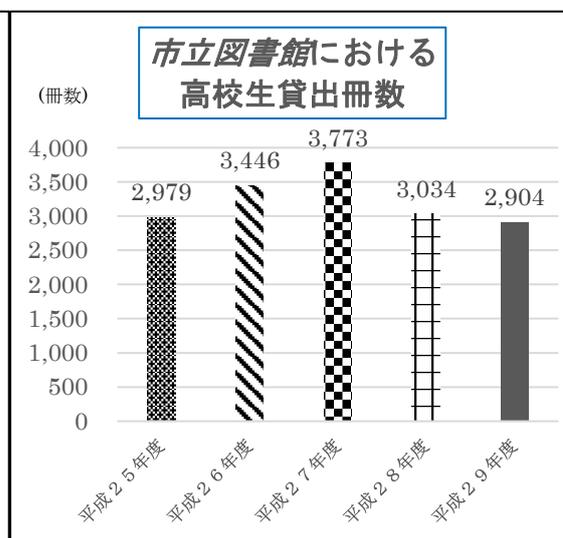
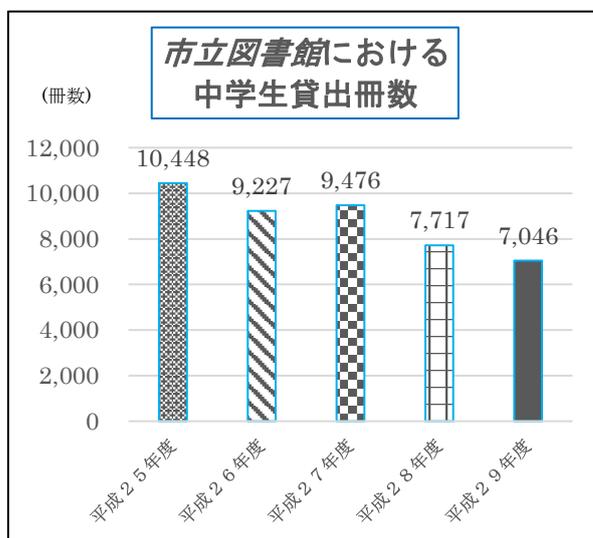
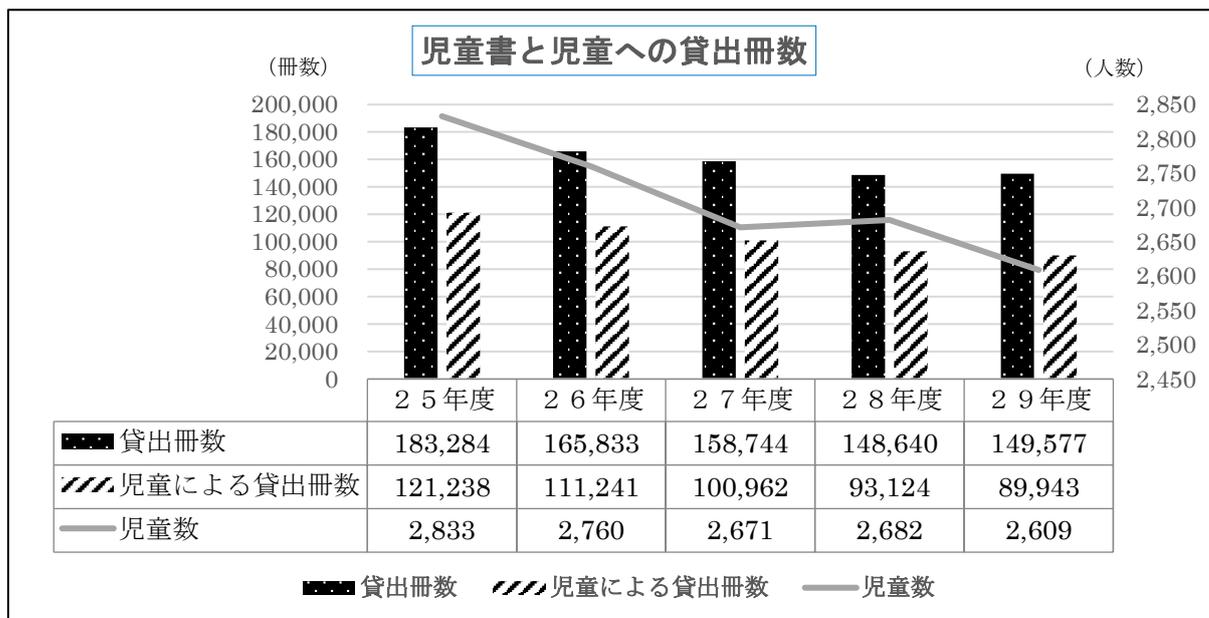


(岡谷市の現状)

保護者が市立図書館や書店などに子どもを連れて行く家庭と、そうでない家庭とでは、子どもが本と出会う機会に差異が生じるのは言うまでもありません。保護者が本好きだから、子どもも本好きになるとは限りませんが、本と出会う機会は積極的に作るように保護者への働き掛けが必要です。

(2) 文部科学省が2016(平成28)年度に実施した「子供の読書活動の推進等に関する調査研究」によると、読書を行っていない高校生は、中学生までに読書習慣が形成されていない者と、高校生になって読書の関心度合いが低くなり本から遠ざかっている者に分かれ、特に前者については、発達段階に応じて読書習慣の形成を一層効果的に図る必要性を訴えています。





(岡谷市の現状)

本を購入するケースを踏まえる必要がありますが、市立図書館における児童、生徒の貸出冊数からみますと年齢が進むごとに低くなることから、岡谷市においても国の見解と同じ傾向にあることがわかります。

2. 子どもの読書活動の課題

(1) 就学前に定着させたい読書習慣

年齢が上がるごとに読書率は顕著に低下するため、幼いころから本に親しみ、本を楽しむ「読書習慣」を身につける環境整備の必要性。

(2) 読書習慣の醸成に不可欠な保護者への情報提供

年々、未就学児に向けた事業の参加率が低下していることから、保護者に向けた読書に関する興味や関心を高める情報提供の必要性。

(3) 発達段階に応じた子どもの読書活動の推進

年齢に応じ、時代に即した読書活動を取り入れる必要性。

3. 子どもの読書活動における展望

(『おかやこども図書館』の併設に向けた環境整備)

未来を担う子どもたちの“読書習慣の醸成と定着”を図るためには、本計画に掲げるソフト面の取組とともに、市立岡谷図書館のハード面の整備も必要です。

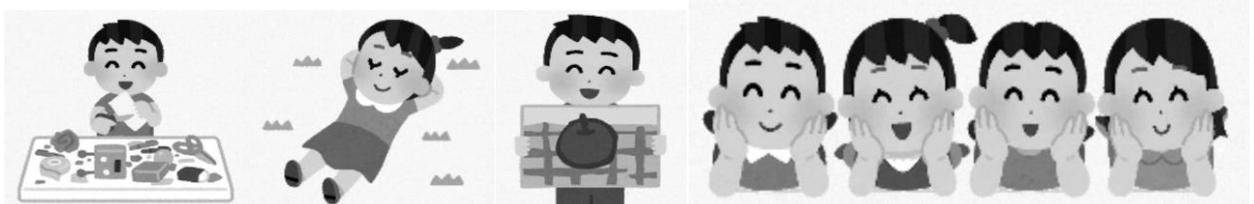
具体的には、

自由に明るく伸び伸びと読書を楽しめるスペース、

「ものづくり」や「シルク」など、ふるさと岡谷に学ぶコーナーの設置、

障がいのある子どもや、外国籍の子どもも利用しやすい配架、

不登校やいじめなど、心の問題を抱える中高生が安らぐ空間づくり など、誰もが利用できる図書館であるからこそ出来る環境づくりの観点から、多機能型の「おかやこども図書館」の併設に向けて、内容や場所の確保などを調査・研究していきます。



4. 具体的な取組

施策 1

家庭における子どもの読書活動の推進

～家庭（保護者）が読書の重要性を理解し実行する環境の醸成～



①ファーストブックプレゼント事業				乳幼児期	
概要	9・10 か月児健康診査時に配布される絵本により読み聞かせを行い、 <u>家庭における読書活動に繋げる。</u>				
年度	2019 (H31)	2020	2021	2022	2023
目標指数 (%)	100	100	100	100	100
<p>計画<目標指数の説明>…行政からのアプローチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標指数については、対象児に対する配布率を <u>100%</u>と設定。 <p>策定前年度である 2017 年度は 91.8%であり、過去 5 年間で見るとやや右肩下がりであるが、他施策とのタイアップやプレゼント後までを見通し、ファーストブックを活用する機会を増やすことで<u>読み聞かせ</u>を行う場の提供に寄与する。</p>					
担当	家庭、市立図書館、健康推進課、園など				
区分	子どもにとっての“ファーストブック”であり、保護者にとってはその子どもへの“ <u>初めての読み聞かせの本</u> ”としてプレゼントされます。その絵本から得る“ <u>親子で「ことば」を大切にすぬくもりの時間</u> ”として受け止め、園などへも配布されることから、園職員や保護者同士で“読み聞かせ”について語り合うなど、情報交換のツールとしても用いるように心掛けましょう！				
継続					

②ブックリスト配布事業				乳幼児期～高校期	
概要	市立図書館が作成した「年代に合わせたブックリスト」を参考に、書店や図書館で本を手にする機会とする。				
年度	2019 (H31)	2020	2021	2022	2023
目標指数 (枚)	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700
<p>計画<目標指数の説明>…行政からのアプローチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標指数については、読書習慣の徹底した周知を実施し続けることで、保護者への意識改革へ繋がると考え、ファーストブックプレゼント時の約 400 枚、市内保育園全園児数 1,169、市内幼稚園全園児数 149 を加えた 1,718≒1,700 枚とした。 					
担当	家庭、市立図書館、書店、園、こどものくに、健康推進課など				
区分	本の専門家である「司書」は市立図書館に常勤しているため、ブックリストに掲載されている本や、掲載されていない絵本や本についても、ていねいに教えてくれます。保護者自ら積極的に尋ねてみましょう！				
拡充					

③うち読でエコ読の日		乳幼児期～高校期				
概要	毎月第3日曜日（家庭の日）には、“ <u>テレビを消して、スマホを閉じて、家で読書をする時間</u> ”や本に関わる話題で“ <u>家族と一緒に過ごす時間</u> ”を作り、家庭の中で本を通し、子どもがことばやぬくもりを感じる日とする。					
年度	2019（H31）	2020	2021	2022	2023	
目標指数（%）	80	100	100	100	100	
<p>計画＜目標指数の説明＞…行政からのアプローチ</p> <p>・目標指数については、2018年8月に一部保護者を対象に行ったアンケート結果によると「知っている」が59%、そのうち、「知っているが活動していない」が89%であったため、本事業に対する感心を高める工夫が必須であることから、認知度を指標とし2019年度は約2割増の80%、その翌年以降は、<u>書店</u>などとも協働するなかで、チラシ配布や、ポスターの掲示など奨励方法を再考する。</p>						
担当	家庭、市立図書館、園、学校、書店、青少年担当など					
区分	子どもは親の背中を見えています。「 <u>うち読</u> 」は家で読書をする事。「 <u>エコ読</u> 」はテレビやゲームを消し、家族が本を通して一つの部屋に集い、楽しく過ごすこと。					
継続	をいいます。…さっそく今月から始めてみましょう！					

④～私が出合った本の記録～ ‘マイ・リーディングメモリーブック “配布事業”		乳幼児期～				
概要	保護者が子どもに対し、読み聞かせた本を記録（題名、作者、感想を記録した日など）して、子どもへ引き継ぎ、 <u>その子自身が生涯読んだ本を振り返ることが出来る手帳</u> とする。また、引き継いだ子どもが親からの愛情や感謝の気持ちを感じることで 心の育ちへ繋げる。					
年度	2019（H31）	2020	2021	2022	2023	
目標指数（%）	-	100	100	100	100	
<p>計画＜目標指数の説明＞…行政からのアプローチ</p> <p>・目標指数については、<u>母子手帳と抱き合わせた配布</u>とした配布率とした。<u>定着後は利用率へと移行する</u>。本を図書館から借りた場合は図書館が、市内書店で買った場合は書店がシールを渡し、貼付したシール数により満足感の得られるものとするなど、<u>事業に対してわくわくする気持ちへ導くアイデアや工夫を施す</u>。</p>						
担当	家庭、書店、市立図書館、健康推進課など					
区分	子どもが、成長過程のなかで <u>自分がどのような本と出合ってきたか</u> を知り、					
新規	「読書の幅を広げるきっかけづくり」となるものです。また、「家庭（保護者）のページ」では「うち読でエコ読」の記録も残すことが出来ますので、各家庭において、この手帳に工夫を施していきましょう！					

⑤読書活動ハンドブック事業				乳幼児期～	
概要	教育委員会や市立図書館からプリント等により「読書に関する情報」を各家庭へ配布された時に、事前に配布された“バインダーファイル（※差し替え可能）式ハンドブック”へ綴り、読書の大切さを確認する。				
年度	2019（H31）	2020	2021	2022	2023
目標指数（%）	-	-	100	100	100
<p>計画＜目標指数の説明＞…行政からのアプローチ</p> <p>・目標指数については、2019・2020年度は教育委員会における研究期間とし、2021年度より<u>小学校入学時</u>に一斉配布とした配布率。保護者へは「読書はおもしろい」、「子どもの成長過程に必要である」と感じ得る内容とし、「岡谷市教育長のページ（メッセージ）」や「教育委員のお奨め本」「図書館だより」などを定期的に配布することでタイムリーな情報を保護者へ提供する。また、<u>教育委員会事務局事業の周知に共通して使用できるものとする。</u></p>					
担当	家庭、市立図書館、学校など				
区分	子どもの「読書習慣の醸成」には、保護者が意識をし、読書に対する関心を高めることが不可欠となります。配布されたプリントの中から <u>保護者の方が共感し感動したものを</u> “マイ・読書ハンドブック”として綴り、息を吹き込むファイルにしましょう！				
新規					

⑥PTA図書館委員会・保護者会における活動				乳幼児期～小学校期	
概要	市から園やPTA図書館委員会へ配布される本の活用を図り、委員会や保護者会の活動に対し「読み聞かせ研修」などを行うなど、家庭における読書活動へ繋げる。また市立図書館などからの情報を保護者間で共有する。				
年度	2019（H31）	2020	2021	2022	2023
目標指数（人）	58 （園38+PTA20）	116 （58×2回）	116	116	116
<p>計画＜目標指数の説明＞…行政からのアプローチ</p> <p>・目標指数については、保護者向け研修の参加者数とした。2017年度は19園（市立保育園14園、私立保育園2園、幼稚園3園）の親子文庫担当者1～2名に対し、市立図書館司書が年度当初に園毎、本の貸出方法や装備方法のレクチャーを実施してきたが、実施方法を見直し担当者2名を招集する「全体研修」として行う。岡谷市PTA図書館委員会については、研修など支援していき、情報を共有する場とする。</p>					
担当	家庭、市立図書館、読書活動団体、園、小学校など				
区分	保護者の意見が積極的に教育施策へ届くように、「子ども読書活動」に関わる施策内容を委員会・保護者会にとどまらず、保護者が個々においても見直し、提言していくようにしましょう！				
拡充					

施策 2

園における子どもの読書活動の推進

～保護者への“読育”に対する周知を担う～



⑦絵本タイム		乳幼児期				
概要	各園で実施している“絵本タイム”や園におけるさまざまな機会を活用した読み聞かせ、語りかけを行い、子どもの興味、関心を尊重しながら自主的な読書活動を推進する。					
年度	2019 (H31)	2020	2021	2022	2023	
目標指数 (分)	285	380	380	380	380	
計画<目標指数の説明> ・目標指数については、実績に伴い各園で1日15分間（※継続時間でなくトータル時間）×19園＝285分とした。2020年度以降については、1日20分間とした数値。						
担当	園、市立図書館					
区分	19園（市内公立保育園13園、認定子ども園1園、幼稚園3園、私立保育園2園）					
継続	は本計画における重要な位置付けの「 <u>就学前</u> 」時期であることから、園長会において読書習慣の定着に対する意見を出し合い、読書機会の拡充に努める。また、ファーストブックなどを活用しながら、子どもだけでなく、保護者へも <u>ことばや感性を育む「読み聞かせ」</u> の説明や実演を行う。					

⑧保育園幼稚園親子文庫		乳幼児期				
概要	園と保護者会が協働し、配本されている本を子どもだけでなく保護者も楽しむために、子どものお迎え時間などに利用できる保育園幼稚園親子文庫の利用促進に努める。また、園からは、お便りなどを通じた絵本の紹介や園での絵本展示など、読み聞かせの大切さを伝える場とする。					
年度	2019 (H31)	2020	2021	2022	2023	
目標指数 (冊)	47,500	57,000	57,000	57,000	57,000	
計画<目標指数の説明> ・目標指数については、2017年度の貸出冊数47,325冊に近い47,500冊（2,500冊×19園）とし、2020年度以降は3,000冊×19園＝57,000冊とした。						
担当	園、保護者会、市立図書館					
区分	書棚の配置位置やお奨め本の周知、ファーストブックの活用など、					
継続	「施策1 家庭」における施策との連携を重視し展開する。					

⑨未就園児親子交流		乳幼児期				
概要	未就園児を対象とした子育て支援活動として、保育園の活動を親子で体験する機会を市立13保育園が月に1回1時間の単位で実施し、そのなかで読み聞かせなどを積極的に行い、読書や読み聞かせの重要性を啓発する。					
年度	2019 (H31)	2020	2021	2022	2023	
目標指数 (分)	780	1,560	1,560	1,560	1,560	
計画<目標指数の説明> ・目標指数については、未就園児の集中が保てる時間を5~10分と考えての設定とし2019年度は5分×13園×12ヶ月=780分、2020年度以降は10分×13園×12ヶ月=1,560分とした。						
担当	園、家庭					
区分	園長会をはじめとして、行政や学校そして家庭（保護者）が足並みを揃えて「 <u>岡谷市の子どもをどう育てていくか。</u> 」……を考え、“ <u>本を通して、ことばを大切に、心豊かに育つように。</u> ”といった願いや方針に対応する。					
拡充	小さいときは「耳」から、年齢が上がるとともに「目」からの読書へ移行していくことを認識し、未就園児については、保護者への周知が有効であることから「読書」に繋がるパネルシアターなどを積極的に用い、市立図書館事業である「ちいさなおはなしの森」や、“こどものくに”における「おはなしたまご」との連携を図るなど、読書習慣の重要性を伝える資料の提供、配布を検討する。					



施策 3

学校における子どもの読書活動の推進

～児童・生徒における読書習慣の定着（読育）・市立岡谷図書館との連携～



⑩朝読書の推進				小学校期～高校期	
概要	朝読書の充実を図り、子どもの自主的な読書活動の推進に努める。				
年度	2019 (H31)	2020	2021	2022	2023
目標指数 (分)	560	605	605	830	830
計画＜目標指数の説明＞ ・目標指数については、2017年度における1週間の朝読書時間の実績（小学校：30分1校、40分2校、45分1校、50分1校、75分1校、80分1校、中学校：50分4校）＝560分を2019年度とし、2020・2021年度は4中学校が基調としている50分（1日10分×5日）を平均値とし、小学校で到達していない学校を週50分とした605分、2022・2023年度は平均値を75分（1日15分×5日）、75分以上の学校は維持とし、小学校75分6校、80分1校、中学校75分4校＝830分とした。					
担当	小・中学校				
区分	市内小中学校における朝読書の定着はされているが、学校運営計画などにより				
継続	（※学校の教育方針）学校間で差異が生じている。この差異については、学校の方針が最優先であるが、校長会などで岡谷市の教育方針を踏まえ、足並みを揃え目標を達成するように努める。				

⑪学校訪問！地元有識者などからの本を使ったお話				小学校期～中学校期	
概要	朝読書の時間等を活用し、地元有識者が推薦する本や影響を受けた本などを紹介し、地元で根ざした本を通じた世代間交流を行う。				
年度	2019 (H31)	2020	2021	2022	2023
目標指数 (回)	-	11	22	22	33
計画＜目標指数の説明＞ ・目標指数については、地元有識者のリスト及びメニューを作成するなど準備期間とし、2020年度は各校1回、2021・2022年度は各校2回、2023年度は各校3回とした数値。					
担当	小・中学校、地域住民、市立図書館				
区分	朝読書の時間を活用した <u>児童生徒が本に関心を示すための</u> 時間を作り、				
新規	児童生徒へ「 <u>好奇心を持つと人生、精神的にも豊かになるよ</u> 」というメッセージ性も込めた「出前講座的な施策」とする。				

⑫「本の紹介カード」の作製からブックリストへ					小学校期～高校期	
概要	自分が感じた本の楽しさや感動を伝えるカードを <u>学校図書館の本</u> の中から作製する。出品された作品のなかから学年毎に優秀賞を選び、 <u>市立図書館</u> が発行している「ブックリスト」に組み込み、掲載する。					
年度	2019 (H31)	2020	2021	2022	2023	
目標指数 (品)	-	22	44	44	88	
計画<目標指数の説明> ・目標指数については、2019年度は準備期間とする。2020年度以降は出品数とし、2021年度は市内小中学校から2品の22品、2021・2022年度は各校から4品、2023年度は8品と2年毎に倍数とした。						
担当	小・中学校、市立図書館					
区分	・児童生徒に対し、“ものづくり”と“読書”を融合した学びと、学校図書館を活用した連携事業の一つとし、乳幼児向け、園児向け、小学生低学年向け、高学年向け、中学生向けなど年齢層に沿った推薦本を紹介するブックリストの充実と、児童生徒が製作に関わることで、子どもの読書意欲へ繋げる。					
新規						

⑬学校図書館の活用					小学校期～高校期	
概要	子どもの自主的な読書活動の推進を図り「子どもに身近な学校図書館」とする。					
年度	2019 (H31)	2020	2021	2022	2023	
目標指数 (冊)	73	80	80	80	80	
計画<目標指数の説明> ・目標指数については、2017年度の小学生1人当たりの年間貸出冊数とした。中学生、高校生と年齢が上がるに従い、貸出冊数は右肩下がりとなっているが、学校図書館が身近な場所として認知される工夫が必要である。また、目標値の単位については、入館数としていくことも今後検討する。						
担当	小・中学校、高校、市立図書館					
区分	“岡谷市魅力と活力ある学校づくり推進プラン”との整合性を図りながら、 <u>学校図書館における「読書センター」・「学習センター」・「情報センター」</u> としての機能を果たすため、子どもの考える力（知的好奇心）を生かした「探求的な学び」を支援する環境整備を行う。					
継続						

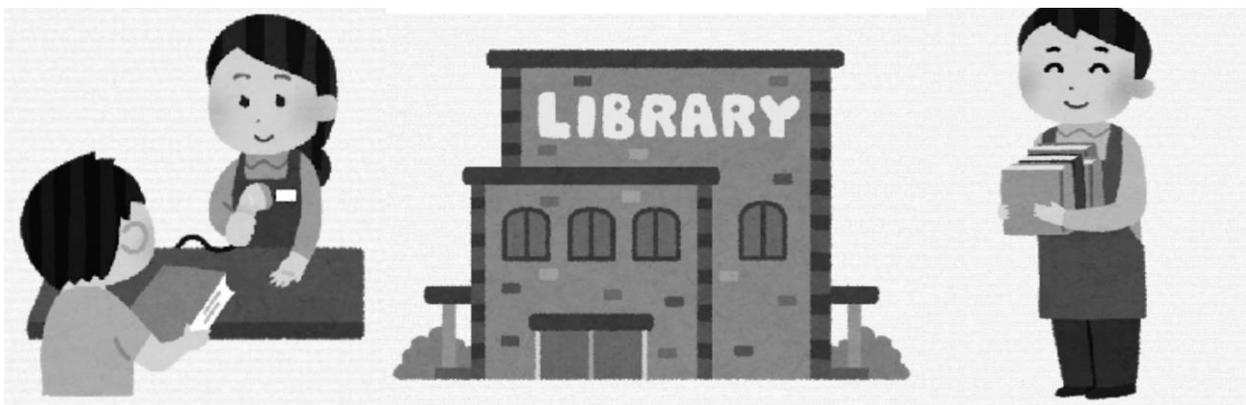
⑭市立図書館との連携				小学校期～高校期	
概要	学校図書館と市立図書館を繋ぐ事業を段階的に展開し、児童生徒の読書意欲を支援する体制強化に努める。				
年度	2019 (H31)	2020	2021	2022	2023
目標指数 (校)	11	11	11	11	11
計画＜目標指数の説明＞ ・目標指数については、学校図書館と市立図書館の連携システムの第1段階として、各小中学校に「市立図書館ポスト」を設置し、市立図書館で借りた本を学校図書館で返却できる仕組みを作るため、設置校数とした。第2段階として、学校で市立図書館の本が借りられる仕組みなどを検討するなかで、目標指数については利用率へ移行する。					
担当	小・中学校、市立図書館				
区分	すべての子どもが、平等に公平な環境のなかで本に触れられるシステムを構築する必要があり、根拠法令の違いはあるが、学校図書館と市立図書館が「連携」				
拡充	「協働」を図るなかで読書環境の整備を行う。				



施策 4

図書館における子どもの読書活動の推進

～すべての子どもが読書機会を得ることが出来る環境整備～



⑮子ども読書会議（地元企業とのコラボ企画等）				小学校期～高校期	
概要	子ども読書活動推進計画の推進を図るため、子どもからの提言などを得る機会とし、子どもたちが積極的に参画する「子ども読書会議」を実施する。				
年度	2019（H31）	2020	2021	2022	2023
目標指数（人）	22	25	28	28	28
計画＜目標指数の説明＞ ・目標指数については、小学生については「読書感想文」からの本の紹介、中学生についてはビブリオバトル（提言を聞き、読んでみたい本の投票を行うが、その点については検討。）として、全校2名の発表者で目標指数を22とした。2020年度は市内3高等学校から1名ずつ参加要請をした数値。2021年度以降は高等学校からの参加者を各校2名とした数値。なお、「子ども読書会議」＝ビブリオバトルという固定観念では無く、世情を反映した色々な試みを実施する。					
担当	市立図書館、市内校長会、岡谷市子ども読書活動推進会議、書店など				
区分	出合った本を自分の言葉で語る、または感想を持ち、他の人に伝える。という				
拡充	ビブリオバトル形式を取り入れることで、児童生徒が本に興味を持つことに繋げる。また実際にビブリオバトルを開催している地元書店に協力を依頼し、 <u>高校生も関心を持てるイベント・会議となるように工夫を施す。</u>				

⑯読み聞かせ事業				乳幼児期～高校期	
概要	読書活動団体と連携して「おはなしの森」「ちいさなおはなしの森」などの読み聞かせ事業の充実を図り、子どもの読書のきっかけづくりを推進する。				
年度	2019（H31）	2020	2021	2022	2023
目標指数（人）	700	770	850	940	1,040
計画＜目標指数の説明＞ ・目標指数については、2017年度の参加者数626人の1割増の数値とし、2020年度以降についても各年度における前年度の1割増の数値とした。					
担当	市立図書館、読書活動団体など				
区分	毎週実施している「おはなしの森」などは、標本調査結果によると「親子で図書館へ来館したことがある」 83% に対し、「おはなしの森に参加した」 30% である				
継続	ことから、館内外の周知方法の他に開催場所などを検討して活性化に努める。				

⑰としょかんこども読書まつり		乳幼児期～高校期				
概要	子ども読書活動を推進している各団体が集い、子どもに向けた活動発表をすることで他団体との相互理解を深め、活動内容の充実を図るとともに、子どもが読書活動に対する好奇心を高める機会とする。					
年度	2019 (H31)	2020	2021	2022	2023	
目標指数 (人)	17	20	20	20	20	
計画<目標指数の説明> ・目標指数については、岡谷市保育協会、おかや文化振興事業団国際交流センター、岡谷おはなしの会、おかや子どもの本の会、岡谷ふくじゅ草の会、言の音の輪、ひなげしの会、川岸手づくり絵本の会、PTA図書委員会当番校(2校)、岡谷東高等学校、岡谷南高等学校、岡谷工業高等学校、岡谷市内4中学校図書委員会、以上17組へ参加依頼を行っているが、全団体の参加は為されていないため、2019年度は全団体数とし、2020年度以降は更に多くの団体へ呼び掛けることを前提とした目標値とした。						
担当	市立図書館、読書活動団体など					
区分	平成元年より「岡谷図書館秋の文化祭」として実施している。土日の2日間で開催していることから、土曜学童クラブや保育園などの児童、園児を招待するなど、					
継続	子どもからの活動内容の感想が得られるように参加児童生徒の参集方法を検討する。					

⑱としょかんキッズ・職場体験（インターンシップ）		小学校期～高校期				
概要	子どもが図書館業務を知るなかで、本を別の角度から「見て・触れる機会」を提供し、本に対する関心を深めることができるよう「としょかんキッズ（1日図書館員）」の実施や職場体験、インターンシップを積極的に受け入れる。また参加児童生徒が他の児童生徒と図書館を繋ぐ役割を担う活動とする。					
年度	2019 (H31)	2020	2021	2022	2023	
目標指数 (人)	30	30	30	30	30	
計画<目標指数の説明> ・目標指数については、2017年度の参加者数23名に基づき、図書館が指定する日程を工夫するなどの見地から30名とした。						
担当	市立図書館、読書活動団体など					
区分	事業名である「としょかんキッズ」が小学生向きであるため、ライフステージ毎の事業名とするなどの工夫をし、また「職場体験」や「インターンシップ」は					
継続	学校における日程が決まっていることから、実施日（曜日）について学校側にも配慮いただけるよう依頼する。					

⑱資料の充実と資料提供		小学校期～高校期				
概要	子どもの実態やニーズに応じた資料を購入し、レファレンス機能の充実に努める。また、蚕糸業に関する郷土学習など“推奨するテーマ”に対応した資料を揃え、場所を確保し、子どもが図書館で学べる「子ども向け特設コーナー」の設置を検討する。					
年度	2019 (H31)	2020	2021	2022	2023	
目標指数 (回)	1	2	2	2	2	
計画<目標指数の説明> ・目標指数については、一定のテーマを絞りながら場所などを試行錯誤し、1回(1テーマ)とした。選書についても、子どもが考える力を身に付ける「化学する本」など、楽しく図書館へ足を運ぼうと思う本の配架とする。2020年度以降は年2回とした。						
担当	市立図書館、教育総務課など					
区分	レファレンスコーナー及び大人向けの特集コーナーは設置しているが、					
拡充	「子どもの学び」を主眼とした学べるエリアの確立は未実施である。図書館の床面積などの課題があるが、2階全体の使用方法も検討し実施に繋げる。					

⑳テーマブックコーナー&図書館d e 講座		乳幼児期～高校期				
概要	家庭や学校などへテーマを絞り推奨する本を紹介することで、子どもへの読み聞かせ題材などの情報提供と、図書館を訪れた子どもが本に興味を持つレイアウトを工夫する。					
年度	2019 (H31)	2020	2021	2022	2023	
目標指数 (回)	28	36	36	36	36	
計画<目標指数の説明> ・目標指数については、「テーマブックス」…一般書は中高生を、児童書は小学生以下の子どもや読み聞かせを行う方々を対象に毎月テーマを変えながら設置していることから12ヶ月×2(一般書・児童書)=24、「図書館d e 講座」…2018年度実績である推進強化月間(男女共同参画・岡谷市防災の日・食育・健康増進)=4の合計28とし、 2020年度以降は依頼のみで対応している「図書館d e 講座」を <u>全ての部署へ周知し</u> 、毎月実施の+8=36とした。						
担当	市立図書館、市役所各部署など					
区分	購入図書の内容を更に充実させていくとともに、レファレンス機能を全面にPRした活動と教育委員会の方針とをタイアップすることで、活動の周知を行い、					
拡充	子どもを取り巻く環境全てが共通認識・ <u>情報共有の場</u> となる取組とする。					

⑳岡谷市子ども読書活動推進会議の活動				乳幼児期～高校期	
概要	岡谷市における子ども読書活動の推進を図るため、計画を5ヵ年毎に策定し、PDCAサイクルに基づき多方面からのアプローチを協議し実施する。				
年度	2019 (H31)	2020	2021	2022	2023
目標指数 (回)	10	12	12	12	12
計画＜目標指数の説明＞ ・目標指数については、会議の開催数とした。2018年度は第3次計画策定のため、全体会（5回）の他に各施策のヒアリングなどを外部（地元企業、読書関係者）2人、正副会長、有識者1名、計5名で5回実施したことによる10回を、2019年度以降については、「子ども読書会議」を始め、各種施策参画を積極的に行うため同数とし、2020年度以降は「延べ毎月」の12回とした。					
担当	市立図書館、岡谷市子ども読書活動推進会議など				
区分	「子ども読書活動推進計画」に基づき、市立図書館における全ての施策及び施設のレイアウトや活用などについて協議を行い、子ども読書活動に適した環境整備や情報発信基地としての図書館機能について研究し提言する。				
拡充					

㉑研修への参加				乳幼児期～高校期	
概要	市立図書館職員が、あらゆる機会を捉え、積極的な研修への参加に努めることで、子どもの読書活動の活性化を図る。				
年度	2019 (H31)	2020	2021	2022	2023
目標指数 (人)	2	4	6	8	10
計画＜目標指数の説明＞ ・目標指数については、県立長野図書館主催「公共図書館初任職員研修会」が例年開催されていることから、初任者に限らず最低2人が聴講する参加職員数とした。2020年度以降は諏訪圏域の自治体における研修会や講演会を館長会で構築し、民間が開催する研修会、講演会へ参加するなど研鑽を重ねる体制、環境作りに努める。					
担当	市立図書館				
区分	常に時代の流れを注視し、対応を可能とするため、県や民間開催の研修会への参加や先進地視察を行い、タイムリーな情報を市民に提供できる図書館づくりに努める。				
拡充					

施策 5

公民館・こどものくに等における 子どもの読書活動の推進

～地域に根ざした活動の支援と他館との協働～



②③本が身近にある環境づくり（まちかど図書館）		乳幼児期～高校期				
概要	「まちかど図書館」及びこどものくにの絵本コーナーや生涯学習館の学習室、公民館の子育て応援コーナーなどの図書の実を図り、いつでも本が身近にある環境づくりの推進に努める。					
年度	2019（H31）	2020	2021	2022	2023	
目標指数（箇所）	8	10	15	20	25	
計画＜目標指数の説明＞						
<ul style="list-style-type: none"> ・目標指数については、2017年度現在の「まちかど図書館」の設置数8（イルフプラザ ・諏訪湖ハイツ・ロマネット・勤青ホーム・岡谷市役所ロビー・市民体育館・美術考古館 ・岡谷病院前バス停）とし、2020年度以降は高校生が利用する駅やララ岡谷入口（バス停留所前）、駅南、小中学校近くの安全な場所など段階的に増設する数値とした。 						
担当	市立図書館、生涯学習活動センター、こどものくに、3公民館など					
区分	除籍本（リサイクル（廃棄）予定の本）や寄贈本の一部を「まちかど図書館」に陳列しているため、 無償提供が可能 であることの周知を図ることで、子ども達も気軽に活用できるようにPRを行う。					
拡充						

②④こどものくににおける読書活動		乳幼児期～小学校期				
概要	こどものくにの各種講座や行事において“おはなし会”を取り入れ、主に乳幼児への読み聞かせの重要性についての啓発を行う。					
年度	2019（H31）	2020	2021	2022	2023	
目標指数（人）	560	620	620	620	620	
計画＜目標指数の説明＞						
<ul style="list-style-type: none"> ・目標指数については“こどものくに”で開催している「おはなしたまご」参加者数560名を2019年度の数値とし、2020年度以降は約1割増を目標値とした。 						
担当	こどものくに、市立図書館					
区分	市立図書館における「おはなしの森」との姉妹事業として、ファーストブックの活用により、読み聞かせなどの内容等について連携・協働を推進する。					
継続						

②⑤生涯学習活動センター・公民館等における読書活動		乳幼児期～小学校期				
概要	輝く子育て支援学級、家庭教育学級、地域子（己）育てミニ集会などにおいて“おはなし会”を取り入れ、主に乳幼児への読み聞かせの重要性についての啓発を行う。					
年度	2019（H31）	2020	2021	2022	2023	
目標指数（人）	1,688	1,860	1,860	1,860	1,860	
計画＜目標指数の説明＞ ・目標指数については、生涯学習活動センター、3公民館における各学級や講座の2017年度参加者数1,688とし、2020年度以降は約1割増を数値とした。						
担当	生涯学習活動センター、3公民館、市立図書館など					
区分	生涯学習活動センター、3公民館については、読書活動に関するプログラムについて、「読み聞かせ研修」や「朗読会」など、学習成果を子ども達への発表の場とする機会へ繋げるなど“世代間交流”を増やすための資料提供や情報交換を行う。					
継続						

②⑥“絵本”をテーマにした 美術考古館&市立図書館におけるイベントの開催		乳幼児期～高校期				
概要	美術考古館において“絵本”をテーマにした展覧会等や、市民が自主的に作成した絵本の作品展を市立図書館や地元書店などと協働で実施する。					
年度	2019（H31）	2020	2021	2022	2023	
目標指数（人）	-	100	100	100	100	
計画＜目標指数の説明＞ ・目標指数については美術考古館における「児童版画展」の参加人数を参考にし、2020年度以降は約2割増を目標値とした。2019年度は関係部署と協議し細部を検討。						
担当	美術考古館、市立図書館、地元書店など					
区分	“童画館通り”を生かした、美術考古館周辺全体で盛り上げるイベントとし、中央通りの賑わいも図ることで、全ての年齢層に絵本の魅力を伝え、子や孫へ「読んであげたい」「プレゼントしたい」と思うきっかけづくりとする。また、発達段階によるお薦めする絵本の展示や、販売、“出張図書館”、美術考古館館長による絵画教室など、民官協働により子ども向けイベントを開催し、保護者や子どもの本への関心を高める。					
新規						

施策 6

読書活動団体における子どもの読書活動の推進

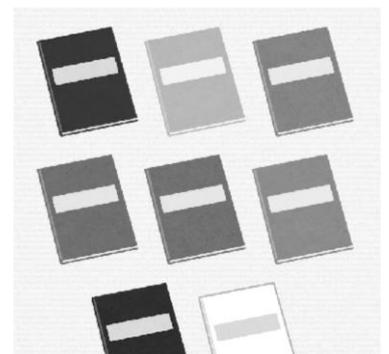
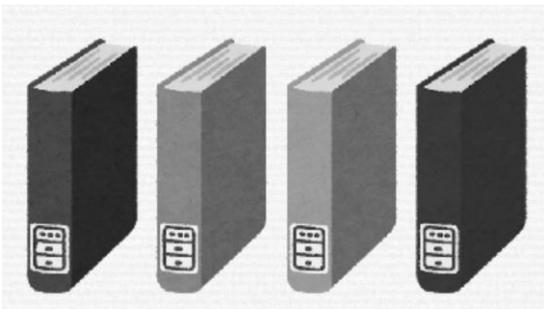
～地域に根ざした活動の支援と他館等との協働～



⑳読書ボランティア連絡会 (おはなしだいすきポポーの木) & 市立図書館の協働		乳幼児期～高校期				
概要	ボランティアで構成された複数の読書活動団体による連絡会 (おはなしだいすきポポーの木) と市立図書館が協働し多くの読書機会のなかで子ども達へ読書の楽しみを伝承する。					
年度	2019 (H31)	2020	2021	2022	2023	
目標指数 (数)	6	8	10	12	14	
計画<目標指数の説明> ・目標指数については、2018年度の参加団体数とし、2020年度以降は高校生や大学生、PTA図書委員会OGなど参加団体の開拓を見込んだ数値とした。						
担当	読書活動団体、市立図書館、小・中学校					
区分	ファーストブックプレゼント事業など、市の施策を応援するとともに、学校、施設などへ出向き、読み聞かせを通して子どもの読書活動を支援する。					
継続	また、多くのグループが参加できる環境を整え、後継者育成に努める。					

㉑公共施設の利用支援から子どもへ		小学校期～高校期				
概要	読書活動団体の学習や、その成果の発表の場として、市立図書館会議室の利用を積極的に支援することにより、子どもが参画する機会を増やし、世代間交流へ繋げる。					
年度	2019 (H31)	2020	2021	2022	2023	
目標指数 (回)	40	50	60	70	80	
計画<目標指数の説明> ・目標指数については、2017年度における実績延べ40回とし、2020年度以降は周知徹底し利用団体の増を見込んだ数値とした。						
担当	読書活動団体、市立図書館、小・中学校					
区分	読書サークル(自主グループ)の活動に際し、市立図書館2階会議室を「貸会議室」として提供しているが、学んだ知識を子ども達へ還元することに繋げ、読書活動の輪を広げる。					
継続						

㊸読書活動子どもボランティア養成講座 (仮称：ポポー・キッズ)					小学校期
概要	読書活動ボランティア団体「おはなしだいすきポポーの木」の活動内容を一般公募した小学生へ伝授するクラブ活動的な養成講座。毎週土曜日午前11時～11時30分まで実施している「おはなしの森」を聴講後、読み聞かせや紙芝居、人形劇など当日行われた内容を研修する。				
年度	2019 (H31)	2020	2021	2022	2023
目標指数 (人)	10	20	20	20	20
計画<目標指数の説明> ・目標指数については、図書館キッズの参加者数10とし、2020年度以降は「図書館に通う習慣」をつけるための工夫を施し、認知度をあげていくこととした数値。					
担当	読書活動団体、市立図書館				
区分	“読書リーダー”的な役割を担う人材育成とする。習得した読み聞かせやパネルシアター、エプロンシアターなどを「おはなしの森」や「はっらっ来ぶらり講座」など既存事業における実演に繋げる。				
新規					



岡谷市内県立3高等学校における 学校図書館の課題と解決策



課題	取組	現状と課題	解決案
読書習慣の形成	朝読書の推進	<ul style="list-style-type: none"> 一部の学年やクラスで曜日や期間限定での導入がなされている。 市内3校が全校一斉で導入するのは困難。 一部職員や生徒から、全校で導入したらどうかという声もある。 	<ul style="list-style-type: none"> クラスや学年単位での「朝読書」の実施を推進。
図書離れ	図書委員会活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 各校図書委員会で自主的、積極的な活動が行われている。 諏訪地区の図書委員連絡会等を開催し、諏訪県立9校での交流、研修を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書週間などの図書委員会行事の充実。 図書委員による本の紹介やテーマブックコーナー作り等を積極的に行う。 自主的、積極的に図書館運営に関わる図書委員の育成。
	学級文庫（図書館の本をクラスにまとめて貸出）制度の推進	<ul style="list-style-type: none"> 希望クラスに学校図書館の本を、学級文庫として貸出している（適宜入れ替え。利用見込める。） 図書館が遠い、本を選ぶ時間がないなど物理的な問題の解決として、本が身近にある環境を提供するため。 	<ul style="list-style-type: none"> 本が身近にある環境を提供する。
	他分掌との協力	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導係と連携して、読書と図書館利用の推奨をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導係などと連携して、読書と図書館利用の推奨をしていく。
本を薦めあう、読書への関心を高める	ブックリストの活用	<ul style="list-style-type: none"> 各校の特色やニーズに応じたブックリストを、それぞれ作成し、活用している。 	<ul style="list-style-type: none"> 各校の特色やニーズに応じたブックリストを作成・活用していく。
	日常的に本を薦め合う環境の構築	<ul style="list-style-type: none"> 教職員や司書による“本の紹介やブックトークなどを、折に触れて行っている。 図書委員や先生方のお薦め本を読書週間中のお便りで紹介している。 国語を中心に本を互いに紹介し合う（スピーチやポスター形式等）授業実践が増えてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な機会をとらえ本の紹介やブックトークを行なっていく。 授業内で本の紹介方法（POPや帯制作など）を図書館側から紹介するなど、図書館活用を勧めていく。
	ビブリオバトルの導入と大会への参加	<ul style="list-style-type: none"> 全県の高校参加のビブリオバトル大会が始まり、地元から参加者も出ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ビブリオバトルへの参加を推奨する。
授業や行事との連携	授業等での図書館活用の推進	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い教科で図書館活用授業が行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業等での図書館活用を更に推進する。

課題	取組	現状と課題	解決案
情報化の推進	ICT教育などでの図書館活用の推進	・授業におけるICT機器活用が進んできている。各種事業名目でのICT機器を使った授業が計画され、図書館活用が課題となっている。	・ICT機器を使った探究型学習に図書館活用をPRしていく。
様々な読書関連行事への取組	読書関連行事の紹介と支援	(ビブリオバトル参照)	・読書行事に関する情報を広く提供し、参加希望者の支援を行う。
市立図書館や小中学校等との連携	同左	・自校に所属していない資料は、市立図書館から借り受けて、自校の利用者に提供している。今後も相互協力が必要 ・市立図書館のおはなし会に、高校生の有志が参加している。 ・子ども会議への参加は難しいが、近年授業等様々な場面で小中学校との交流活動が進んできている。 学校図書館としても資料提供などの面で積極的に協力している。	・読書行事に関する情報を広く提供し、参加希望者の支援を行う。 ・市立図書館のおはなし会等への参加は、生徒の自主的、積極的な活動となるよう支援する。 ・市立図書館や小中学校等との連携を推進していく。



第3章 資料編

1. 発達段階における特長

乳幼児期

～「情操の基礎を育む重要な時期」～

成長樹子育てポイント

- ☆基本的な生活習慣を、根気よくくり返し、継続して身につけさせましょう。
- ☆親子や家族の触れ合いの中で安らぎを与え、情操を安定させ、豊かな心を育てましょう。
- ☆愛情を込めてあやしたり抱きしめたりし、子どもの心に応え、自立の芽を大切に育てましょう。
- ☆「叱る」と「誉める」はバランス良く、善悪のけじめをきちんとつけさせましょう。
- ☆絵本は幼児の心と言葉を育てます。心をこめて読み聞かせを続けましょう。

読書能力の発達段階

0～3歳＝前読書期

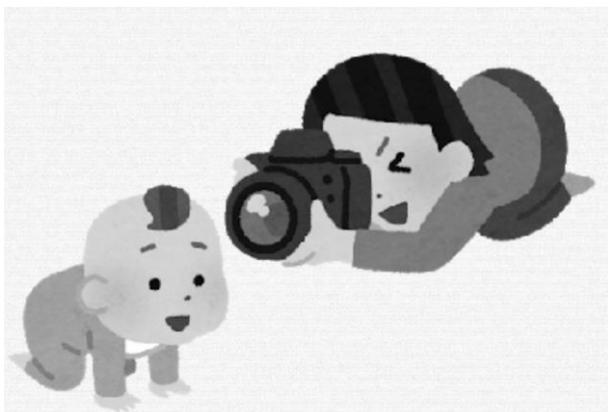
文字の存在を意識し、絵本に興味を抱く時期です。

4～5歳＝読書入門期

読み聞かせをせがんでいるうちに、仮名が全部読めるようになり、自分で本を読もうとします。

学習指導要領等における記述

幼稚園：日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、先生や友達と心を通わせる。



小学校低学年 期 ～「基本的な生活習慣が身につく大事な時期」～

成長樹子育てポイント

- ☆遊びの中から、子ども同士のかかわりを育てましょう。まずは屋外で遊ばせ、経験をさせましょう。
- ☆あいさつ・就寝・食事・学習の習慣等、生活に一定のリズムをもたせるよう支えましょう。
- ☆家庭内で家族の一員として、子どもにしっかり心に向け、具体的な仕事の役割分担を与えて継続的に取り組ませ、達成感のある体験をさせましょう。

読書能力の発達段階

6～8歳＝初歩読書期

最初は速度が遅いものの、読む習慣がついてくるに従って、新しい言葉も推測しながら文章をつかんでいき、自の考えと比較しながら読む。といった創造的な読み方ができるようになっていきます。

学習指導要領等における記述（国語）

小学1～2年生：言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に
して、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

小学校高学年 期 ～「急速に成長し、自分の世界を広げる時期」～

成長樹子育てポイント

- ☆リーダーシップの芽生えの時期でもあります。すすんで活動に参加したことを、認めてあげましょう。
- ☆家族の一員としての役割分担を自覚し、具体的な生活づくりを通して、自分の判断で責任ある行動ができるよう支え続けましょう。
- ☆人とかかわる体験活動を通して、思いやりの心を育てましょう。

読書能力の発達段階

9～12歳＝多読書期

何でも読むうちに、理解と記憶がよくなっていき、必要に応じて読むものを、適切に
選べるようになります。

学習指導要領等における記述（国語）

小学3～4年生：言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に
して、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

小学5～6年生：言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切
さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

中学校期

～「成長への大きな夢や希望を抱く大事な時期」～

成長樹子育てポイント

☆困難に直面しても挑戦する意欲と勇気を支え、育てましょう。

☆心身がアンバランスな成長期です。子どもの興味、関心、意識の実態、心の住み処を、できる限り適切にとらえ、アドバイスしましょう。

☆対人関係に最も敏感な時期です。人と人とのより良いかわりや、人間関係を求める中で、生きるということは苦しみを伴うけれども、「人生は生きることに値する」ものとして、歩み続けることを支えましょう。☆個性の伸長と、人としての自立に向けた心の成長を支えましょう。

読書能力の発達段階

13～16歳＝成熟読書期（共感的読書期）

多読の傾向は少なくなりますが、感動した本を何度も読むようになります。

学習指導要領等における記述（国語）

中学1年生：言葉がもつ価値に気付くとともに、**進んで読書をし**、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

中学2年生：言葉がもつ価値を認識するとともに、**読書を生活に役立て**、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

中学3年生：言葉がもつ価値を認識するとともに、**読書を通して自己を向上させ**、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

高校期

～「大人としての考え方が身につく時期」～

成長樹子育てポイント

☆大人として対等な立場で付き合うことに、心がけましょう。

☆自分の人生を見据え、人生とは何か、人生をいかに生きるかを考え、自立への歩み始める時期でもあります。その思いを見守り、支えましょう。

☆社会に出る準備として、働くことの意味や尊さ、自分の言動には責任を持つことを覚えましょう。

読書能力の発達段階

16～18歳＝成熟読書期（個性的読書期）

読書の目的、資料の種類に応じて適切な読書技術によって読むことができ、成熟した読書人として、論文なども読めるようになります。

学習指導要領等における記述（現行文A）

近代以降の様々な文章を読むことによって、我が国の言語文化に対する理解を深め、**生涯にわたって読書に親しみ**、国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

学習指導要領等における記述（現行文B）

近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、**進んで読書することによって**、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。

成長樹

(せいちょうき)

子育てポイント

高校期

- ★「大人としての考え方が身につく時期」です。大人として対等な立場で付き合うことに、心がけましょう。
- ★自分の人生を見据え、人生とは何か、人生をいかに生きるかを考え、自立への歩みを始める時期でもあります。その思いを見守り、支えましょう。
- ★社会に出る準備として、働くことの意味や尊さ、自分の言動には責任を持つことを教えましょう。

中学校期

- ★「成長への大きな夢や希望を抱く大事な時期」です。困難に直面しても挑戦する意欲と、勇気を支え、育てましょう。
- ★心身がアンバランスな成長期です。子どもの興味・関心、意識の実態、心の住み処を、できる限り適切にとらえ、アドバイスに心がけましょう。
- ★対人関係に最も敏感な時期です。人と人とのより良いかかわりや、人間関係を求める中で、生きるということは苦しみを伴うけれども、「人生は生きること」に値するものとして、歩み続けることを支えましょう。
- ★個性の伸長と、人としての自立に向けた、心の成長を支えましょう。

小学校 高学年期

- ★「急速に成長し、自分の世界を広げる時期」です。また、リーダーシップの芽生えの時期でもあります。すすんで活動に参加したことを、認めてあげましょう。
- ★家族の一員としての役割分担を自覚し、具体的な生活づくりを通して、自分の判断で責任ある行動ができるよう、支え続けましょう。
- ★人とかかわる体験活動を通して、思いやりの心を育てましょう。

小学校 低学年期

- ★遊びの中から、子ども同士のかかわりを育てましょう。まずは屋外で遊ばせ、経験をさせましょう。
- ★「**基本的な生活習慣が身につく大事な時期**」です。あいさつの習慣、食事・就寝の習慣、学習の習慣等、生活に一定のリズムをもたせるよう、支えましょう。
- ★家庭内で家族の一員として、子どもにしっかり心を受け、具体的な仕事の役割分担を与えて、継続的に取り組ませ、達成感のある体験をさせましょう。

乳幼児期

- ★基本的な生活習慣を、根気よくくり返し、継続して身につけさせましょう。
- ★「**情操の基礎を育む重要な時期**」です。親子や家族の触れ合いの中で安らぎを与え、情緒を安定させ、豊かな心を育てましょう。
- ★愛情を込めて、あやしたり抱きしめて、子どもの心に応え、自立の芽を大切に育てましょう。
- ★「叱る」と「誉める」はバランス良く、善悪のけじめをきちんとつけさせましょう。
- ★絵本は幼児の心と言葉を育てます。心をこめて読み聞かせを続け、夢の世界にひたらせましょう。

おかや子育て憲章の具現化に向けて

岡谷市教育委員会では平成14年4月に「おかや子育て憲章」を策定し、その実現に向けて取り組んでまいりました。ここで、より実践的・具体的な、より取り組みやすい、キャッチフレーズにまとめ、おかや子育て憲章を具現化していきたいと考えたものであります。

まとめるにあたり、保育園・小中学校の保護者、学校関係者、地域の方々など多くの皆様にご協力をお願いし、たくさんの方からご意見をいただきました。これらをもとに、岡谷市社会教育委員の会議や「輝く子どもの育成」支援懇話会のおかや子育て憲章実践ポイント活用部会で、成長樹(期)ごとにキャッチフレーズをまとめましたので、是非ご活用をお願いします。 [平成21年10月]

連絡先:
岡谷市教育委員会 生涯学習課
23-4811(内1231)
※会議等でご入用の場合はご連絡下さい。

2. 岡谷市における資料

岡谷市子ども読書活動推進計画



・平成13年12月に施行された「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づく「岡谷市子ども読書活動推進計画」として、平成21年度から平成25年度までの5ヵ年計画で策定した。

子どもの読書活動の推進に関する法律



第9条

2 市町村は、子ども読書活動推進基本計画(都道府県子ども読書活動推進計画が策定されているときは、子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画)を基本とするとともに、当該市町村における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画(以下「市町村子ども読書活動推進計画」という。)を策定するよう努めなければならない。

計画の目標

親子が“わくわくする”読書環境づくりを進め、本が好きな子ども、自ら読み、考える子どもの育成をめざします。

具現化

基本方針

基本方針【4本の柱】

- 1.子どもの自主的な読書活動の推進
- 2.家庭・学校・地域を通じた社会全体での取り組みの推進
- 3.子どもが読書に親しむ機会の提供と読書環境の整備・充実
- 4.子どもの読書活動に関する理解と関心の普及

第2次岡谷市子ども読書活動推進計画(平成26～30年度)の指針

- ・「計画の位置づけ」として上位計画の第4次総合計画と生涯学習推進計画があることを明確にし、「輝く子どもの育成」の実現を目指します。
- ・「計画の期間と対象者」では計画期間を国県に併せ、26年度からの5年間、対象者を概ね18歳以下とします。

【事業内容の展開】

- ・第1次計画では、ノーテレビデーと謳っていたものは「うち読でエコ読」と具体的な普及活動名に、また岡谷市独自に作成したブックリストの活用や「成長樹実践ポイント」に併せたパンフレット作成配布など、家庭内での読書普及をさらに進めていくこと。小学生により開催する「子ども読書会議」を、中学や高校に広げていくこと、障害のある子どもへの支援をあげた。
- ・また、学童クラブや放課後子どもの居場所づくりへの支援や、「ジュニア司書」や「プチボラ」等新しい方策を加え、さらに各部署が連携し保護者への啓発を図り、子ども読書活動を推進していくという計画。

平成17年度(H18春休み～)開始の「としょかんキッズ(1日図書館員)」事業の継続により未実施。

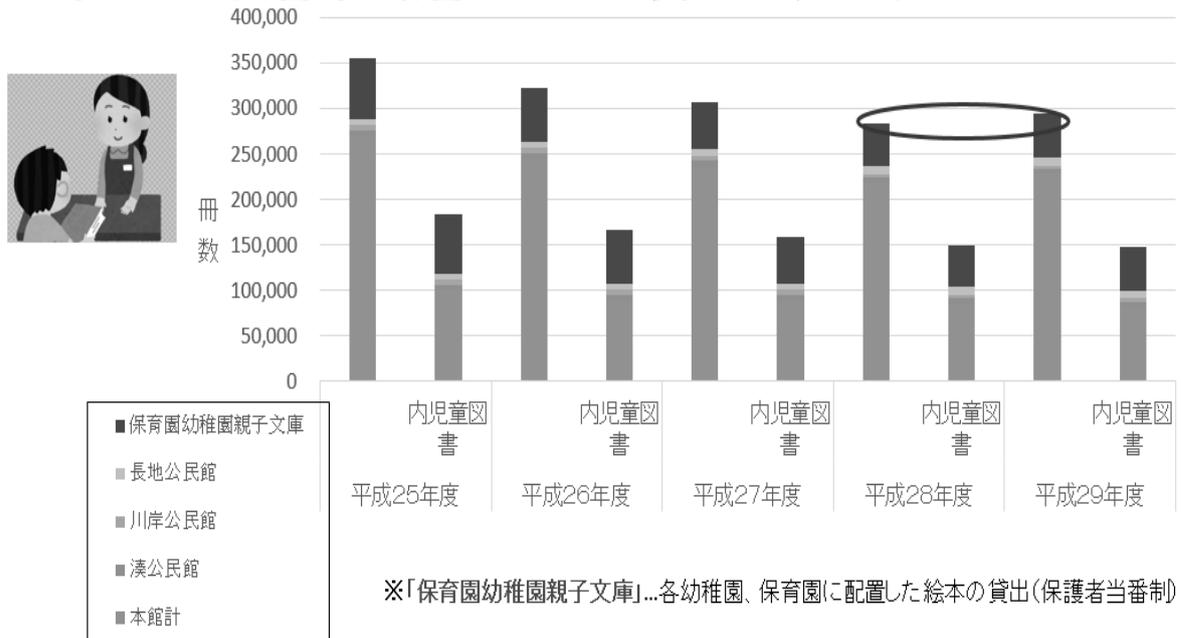
市立岡谷図書館 編

市立岡谷図書館概要 (平成30年3月31日現在)

名称	市立岡谷図書館		
所在地	岡谷市本町四丁目1番39号		
開設	昭和20年4月1日(昭和54年9月8日現在地で開館)		
建物	鉄筋コンクリート2階建一部地階		
	敷地面積	4,090.22㎡	
	建築面積	1,199.04㎡	延床面積 1,942.71㎡
利用案内			
休館日	(1) 月曜日。ただし、この日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときを除く。 (2) 休日の翌日。ただし、この日が休日、土曜日又は日曜日に当たるときを除く。 (3) 年末、年始(12月28日から翌年1月3日まで) (4) 特別整理期間(9月1日から10月31日までのうち10日間) (5) 資料整理日(毎月最後の金曜日。ただし、この日が休日に当たるときは、その前日)		
開館時間	午前10時～午後7時		
館内閲覧	開架式(自由選択)		
総蔵書冊数	232,595冊		



市立岡谷図書館(蔵書)における貸出冊数(全世代)

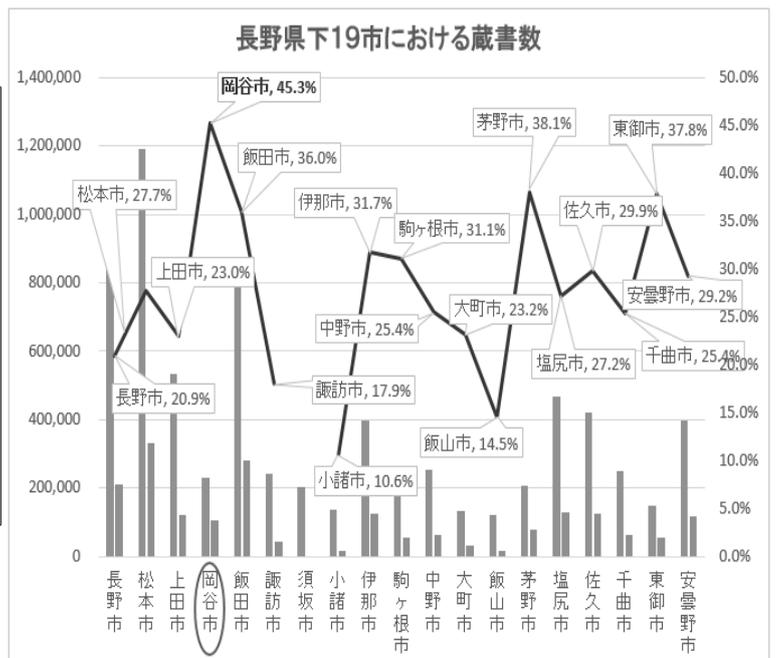
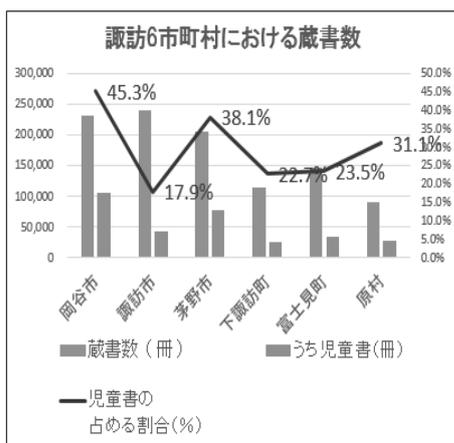


【ポイント】平成25年度から右肩下がりに推移しているが、29年度に貸出冊数が11,215冊伸びたのは主に「相互貸出」である。 ※相互貸出とは...広域における貸出のうち、岡谷図書館の本が他市町村の図書館で借り出された数。

H29長野県公共図書館概況による蔵書数と児童書割合

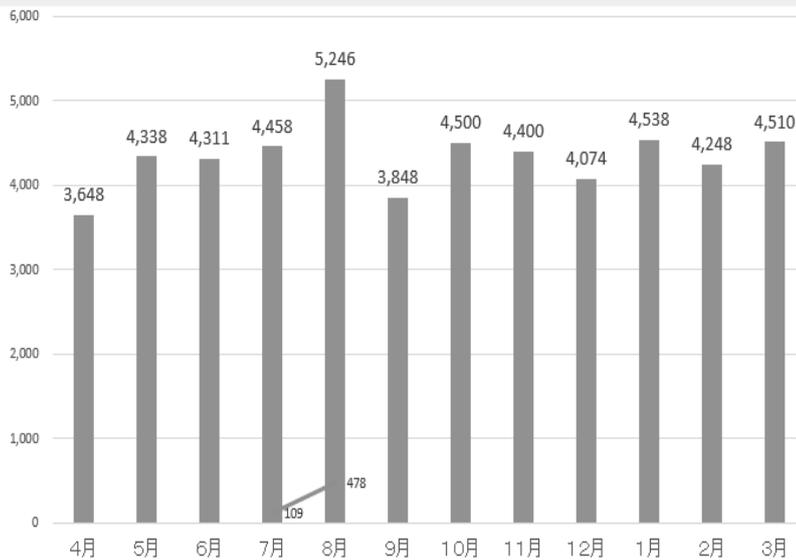
H29.3.31現在

(県立長野図書館版)



入館者数(全世代) 開館時間Am10:00~Pm7:00

H29年4月6日より、初めて入館者数のカウントを手作業で試み年間約52,000人の入館者があることが分かった。
また、夏休み中に開館時間を1時間早める「サマータイム(7/25~8/20)」にも取り組み、一定の成果が得られた。



●入館者数		※サマータイム (内数)
4月	3,648	
5月	4,338	
6月	4,311	
7月	4,458	(109)
8月	5,246	(478)
9月	3,848	
10月	4,500	
11月	4,400	
12月	4,074	
1月	4,538	
2月	4,248	
3月	4,510	
total	52,119	(587)

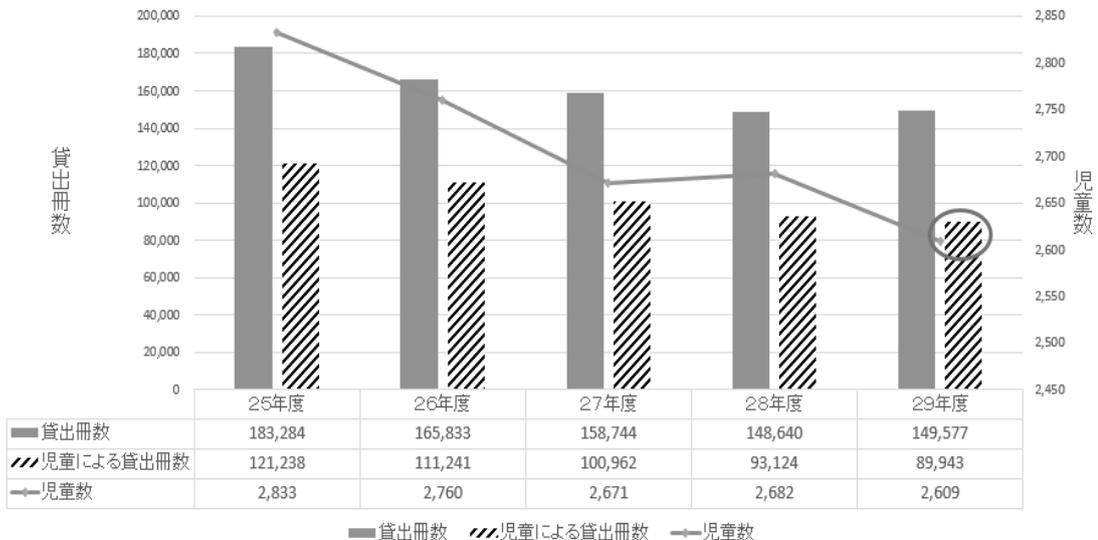
●開館日	
4月	21
5月	24
6月	25
7月	25
8月	26
9月	18
10月	25
11月	25
12月	23
1月	24
2月	23
3月	25
total	284

●1日平均入館者数	
	183.5

【ポイント】 学習室のみ使用する者、同伴者なども含まれている。
→ 子どもの居場所(過ごす場所)として「図書館」は有効。

2018 現状と課題

児童書貸出冊数

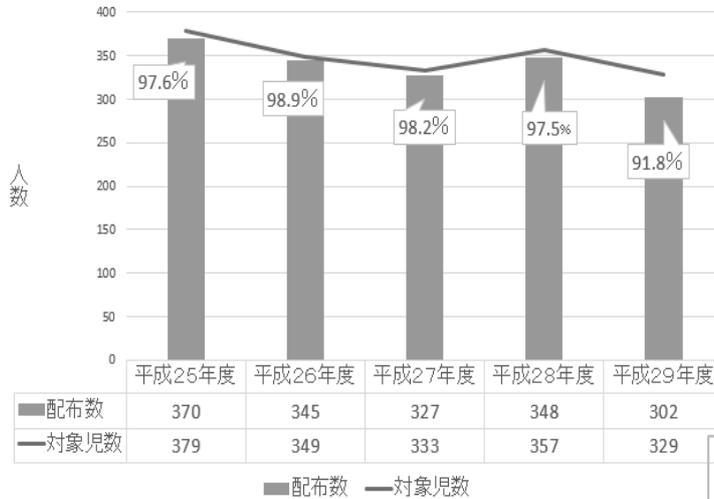


【ポイント】 児童数の増減に対し、貸出冊数は一定の数値を保ちながら右肩下がりで推移している
しかし児童数による割合で見ると増加している。→ 「サマータイム」の導入などの効果

事業検証1

ファーストブックプレゼント事業

～市立図書館から赤ちゃんへ。生まれて初めて出会う絵本をプレゼントしています。～



【ポイント】絵本のプレゼント事業であり、健診時にお渡しすることなどもあり、9割以上の受け取り状況である。

→ この9割という数字を活用した事業展開を考えていきたい。また、セカンド・サードブックについては、費用対効果を含め検証・検討していきたい。 マタニティーファーストブックについては...

【配布時期】

①H25～28＝3～4か月児健診

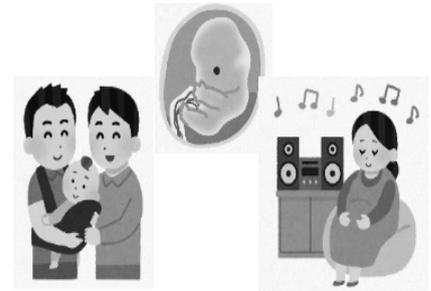
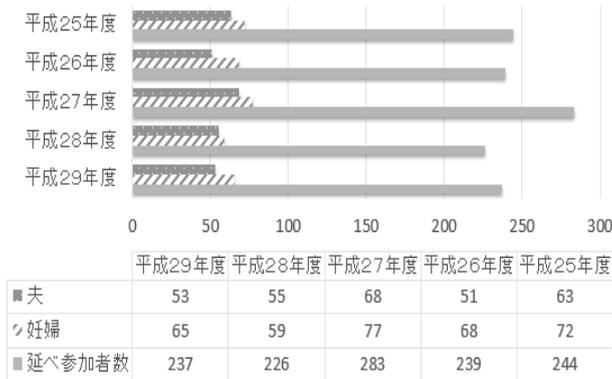
②H29＝9～10か月児健診

(※実績は配布児調整(既に3～4か月児健診で配布した者は省くため)のため半数(151人)であるが参考のため倍数とした)

参考

(健康推進課事業)パパママ教室

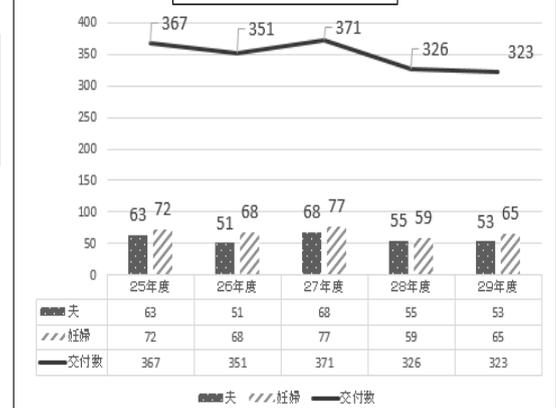
パパママ教室参加者数



【ポイント】マタニティー時期においても働いているなど、時間的余裕が無い女性が多く、また第2子第3子の場合も参加率が下がる傾向とのこと。

→ 夫の参加率が妻と大きくかけ離れていないことは今後のヒントに！

母子手帳交付者数との比較



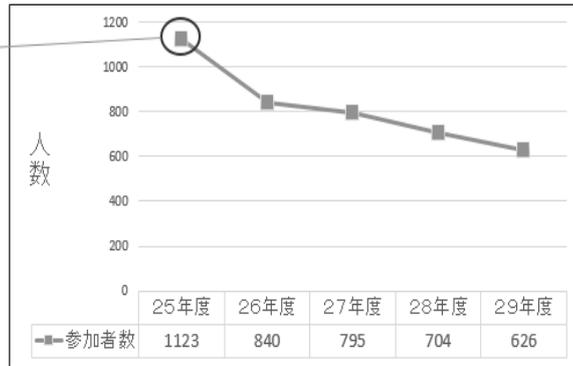
事業検証2

『おはなしの森&ちいさなおはなしの森』

～読み聞かせボランティアや図書館司書が読み聞かせ&パネルシアターなどを通じ、本の楽しさを伝えています。～

- 毎週土曜日＝「おはなしの森(園児～小学校低学年向き)」
- 毎月第3火曜日、日曜日(年5回)＝「ちいさなおはなしの森(幼児向き)」

時間帯をH24まではPm3:00～、
H25からAm11:00に変更。
その時間帯変更周知の徹底が、
事業周知へ繋がったと考えられる。

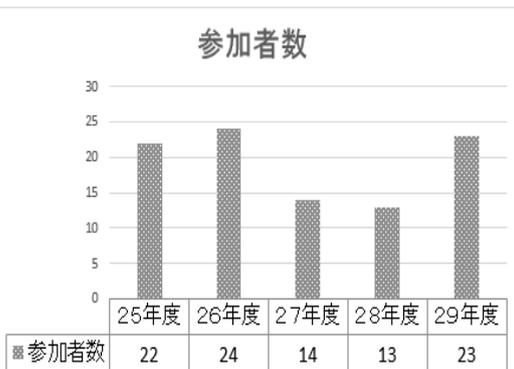


【ポイント】参加者数が5年間で約半数にまで下がっている。市内全市立保育園(14園)、私立幼稚園(2園)、私立保育園(6園)へ月に1回プリントを配布(※貼り出し、チラシ設置)、また、ファーストブック配布時に周知周知方法や頻度の検討が必要。

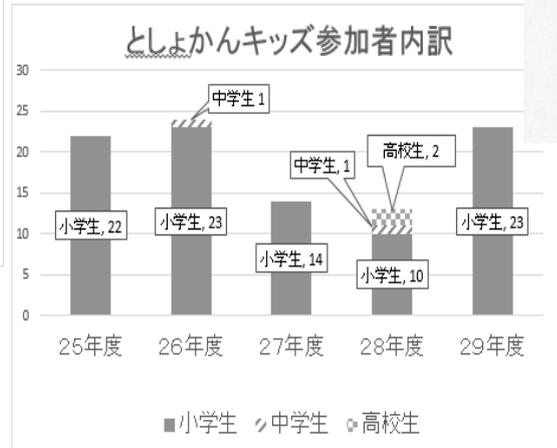
事業検証3

『としょかんキッズ(1日図書館員)』

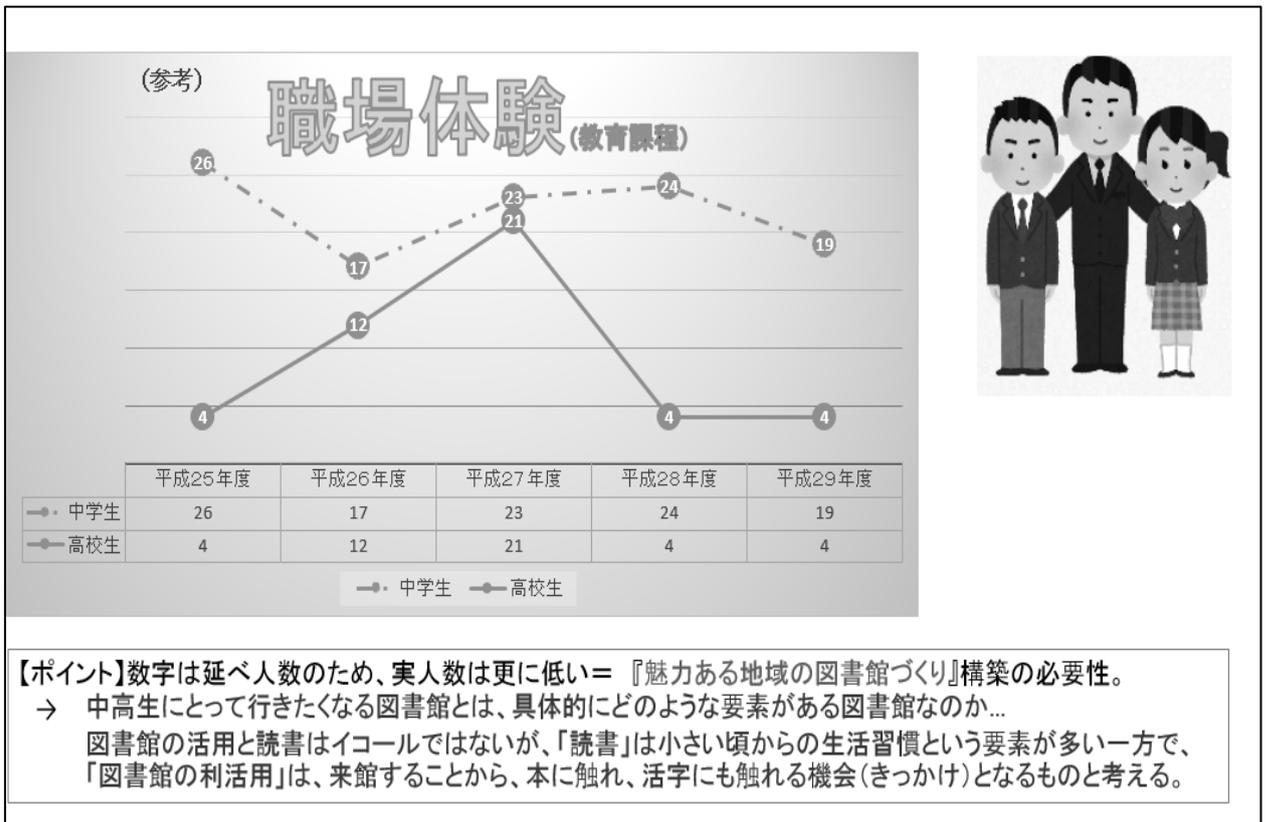
～年2回(夏休み・春休み)小学生から高校生を対象として1日図書館員体験を実施しています。～



＜主な業務内容＞
●カウンター業務(貸出・返却)



【ポイント】参加者は小学生が圧倒的に多い。中高生は職場体験へ流れている？
事業名「キッズ」が影響している？ → 中高生に対しては事業名を変えるなど、周知方法の検討が必要。



平成29年度 児童による貸出ベスト本

()内は貸出回数

1位(42)	かいけつゾロリのにんじゃ大きくせん	原ゆたか 作・絵
2位(38)	かいけつゾロリのじごくりょこう	原ゆたか 作・絵
3位(26)	名探偵シャーロック・ホームズ<おどる人形の暗号>	コナン・ドイル 作
4位(24)	怪盗アルセーヌ・ルパン<王妃の首かざり>	モーリス・ルブラン 作
4位(24)	そんなわけで名探偵	杉山 亮 作
5位(23)	怪盗アルセーヌ・ルパン<あやしい旅行者>	モーリス・ルブラン 作
5位(23)	怪盗アルセーヌ・ルパン<少女オルスタンスの冒険>	モーリス・ルブラン 作
7位(22)	おしりたんてい やみよにきえるきょじん	トルル 作・絵
8位(21)	おしりたんてい むらさきふじんのあんごう	トルル 作・絵
8位(21)	少女ポリアンナ	エレナ・ポーター 作・絵
8位(21)	三銃士	アレクサンドル・デュマ 作
8位(21)	名探偵シャーロック・ホームズ<なぞの赤毛クラブ>	コナン・ドイル 作
8位(21)	名探偵シャーロック・ホームズ<ガチョウと青い宝石>	コナン・ドイル 作
8位(21)	ハムスターのすてきなお仕事	あんびる やすこ 作

【ポイント】 絵が多い、文字の読みやすい本が児童に好まれる傾向

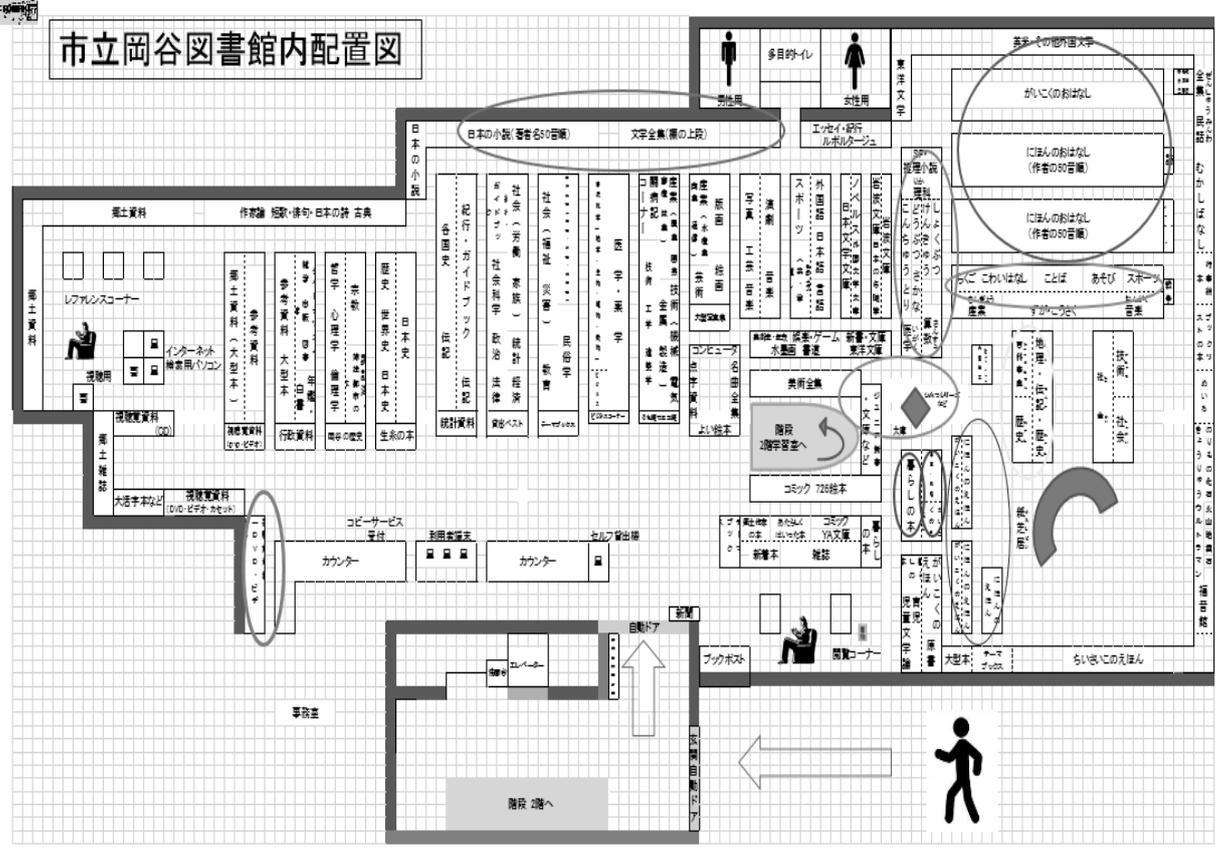
人気分類ベスト10(7歳~12歳)



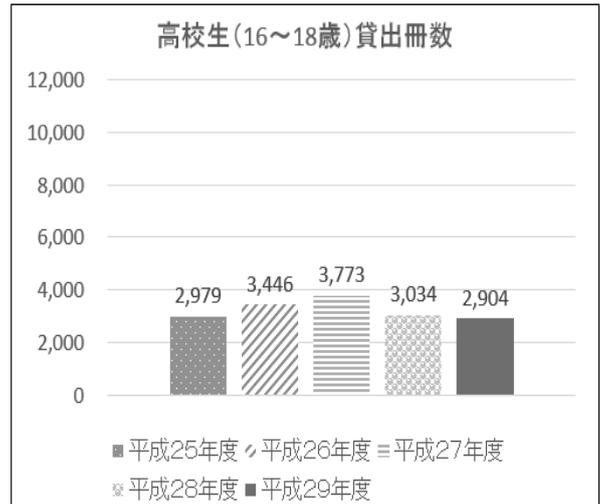
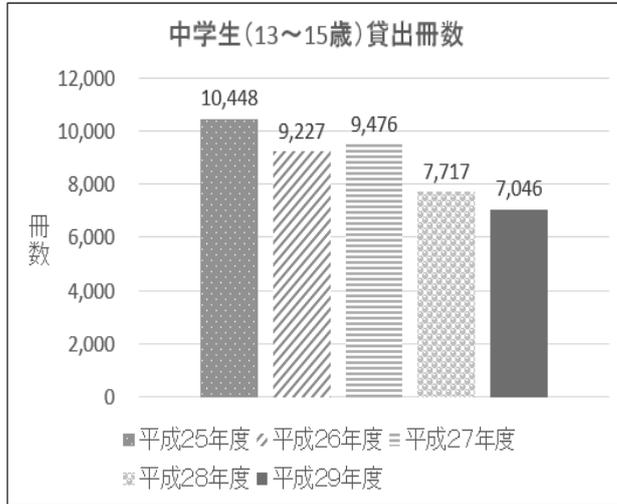
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
1位	児童絵本 14,541	児童絵本 13,029	児童絵本 13,134	児童絵本 13,075	児童絵本 11,684
2位	児童文学 13,934	児童文学 11,385	児童文学 9,784	児童文学 10,920	児童文学 11,354
3位	一般コミック 8,331	一般コミック 6,821	一般コミック 6,532	一般コミック 4,903	一般コミック 3,800
4位	児童芸術 1,953	一般技術 1,515	児童芸術 1,571	児童芸術 1,711	児童芸術 1,884
5位	児童自然 1,712	児童芸術 1,493	一般技術 1,523	一般技術 1,527	児童自然 1,252
6位	一般技術 1,471	児童自然 1,439	児童自然 1,251	児童自然 1,248	一般技術 1,128
7位	児童技術 1,191	AV(DVD) 1,159	児童技術 1,119	AV(DVD) 907	児童技術 930
8位	AV(DVD) 1,107	児童技術 982	AV(DVD) 1,056	児童技術 871	AV(DVD) 858
9位	一般文学 1,064	一般文学 962	一般文学 742	児童歴史 803	一般文学 766
10位	811	762	734	一般文学 775	747

- 児童絵本...日本、外国の絵本
- 児童文学...日本、外国のお話...
「かいけつゾロリ」「シャーロック・ホームズ」等
- 児童芸術...落語、こわいばなし、あそび等
- 児童自然...理科(植物、昆虫等)、算数等
- 児童技術...手芸、料理、医学等
- 児童歴史...地理、伝記、歴史等
- 一般コミック...マンガ「ワンピース」等
- 一般技術...「暮らしの本」等
- 一般文学...ベストセラー本等
- AV(DVD)...著作権等クリア映画、教養DVD等

市立岡谷図書館内配置図

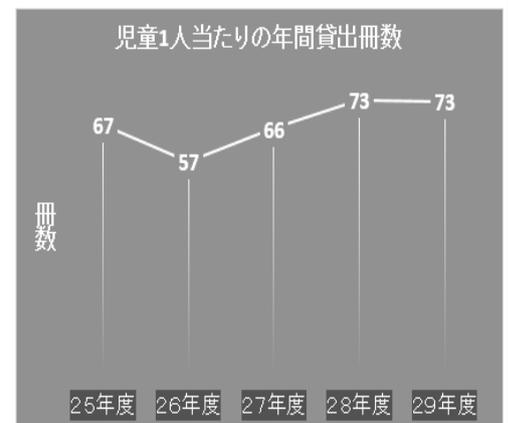
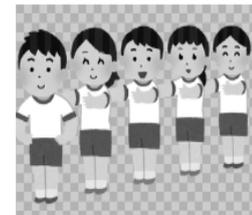
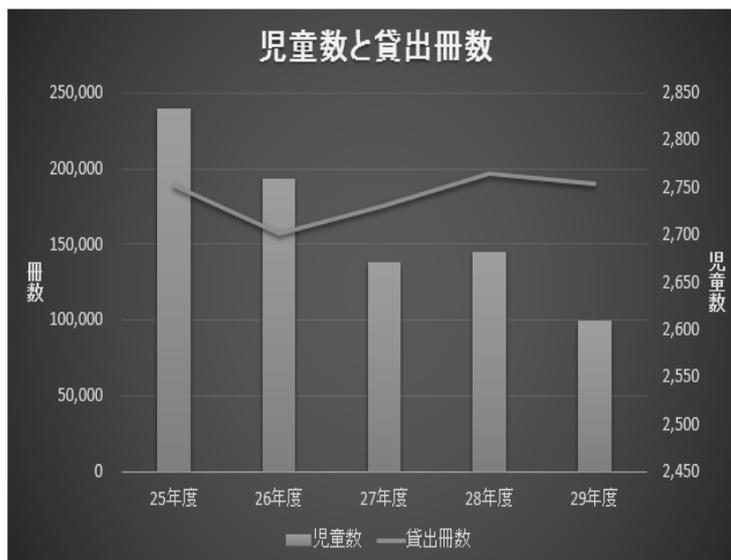


市立岡谷図書館における中学生・高校生利用状況(年齢別)



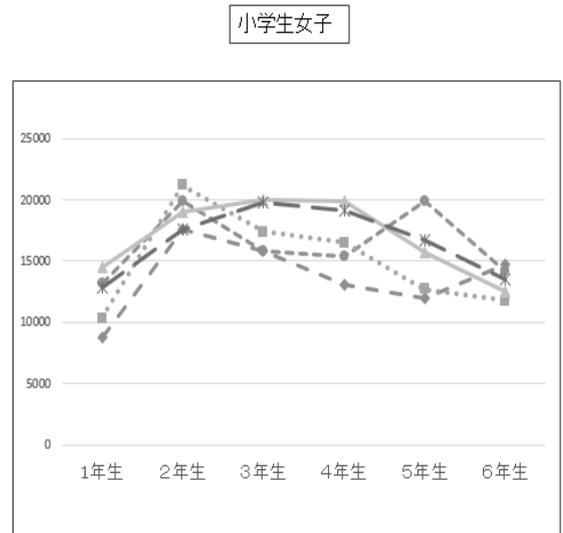
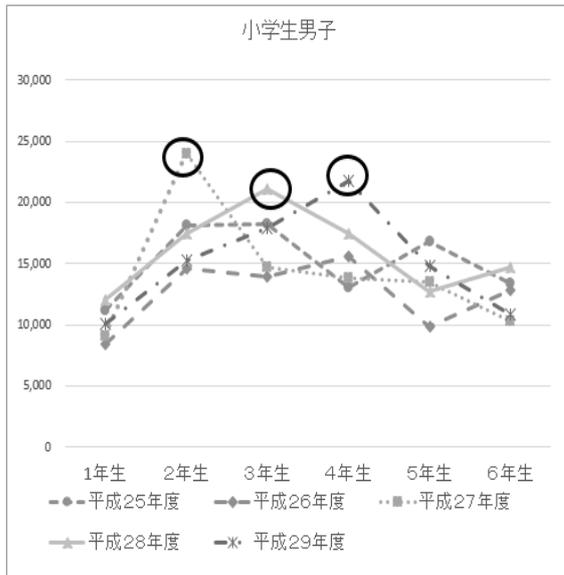
学校図書館 編

市内7小学校における学校図書館



【ポイント】児童数の推移と貸出冊数の推移は比例していない。
→ 児童1人当たりの貸出冊数の推移はH26から右肩上がりである。

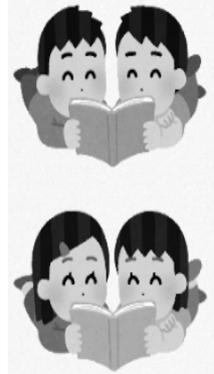
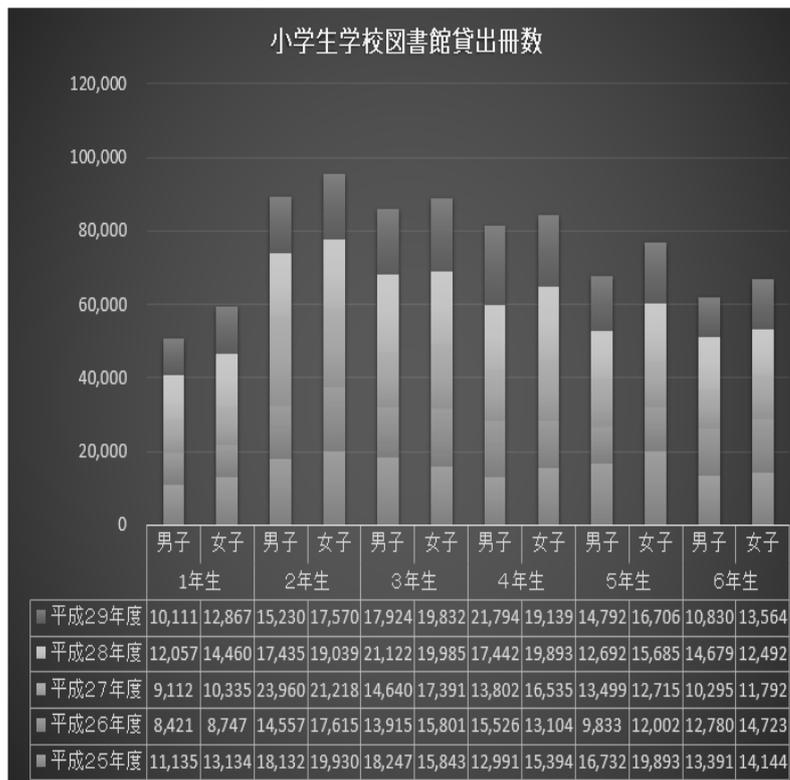
市内7小学校図書館活用状況(男女別)H25～H29年度



【ポイント1】小学生男子の2年生を見ると、H27が高い数値であり、その学年はH28の3年生、H29の4年生であるが、やや下がるものの高い数値を保っている。→「読書」の習慣化がされている可能性有り？

【ポイント2】小学生女子は全体的にまとまったグラフであることから、読書習慣が根付き易い傾向(環境＝少年野球などが無い)であると推察出来る。

市内7小学校における学校図書館貸出冊数



【ポイント】

- ・このグラフからは、学年・男女別及び年度における貸出状況が確認できる。
- ・学年で見ると、2年生をピークに、3、4、5、6年生と緩やかに右肩下がりである。

→ 高学年になるほど読書以外の時間が必要になる。塾通いが多くなる。

- ・男女比では女子が多い。が大きな差は見られない。

- ・年度で見ると、H27、H28に伸びが見られる。

市内7小学校における朝読(あさどく)の実施状況



1週間における朝読書実施回数	2回	3回	4回	5回
実施校	1校	1校	3校	2校

朝読書における1回の実施時間	10分間	15分間	20分間
実施校	3校	3校	1校

朝読書における1週間の実施時間	30分	40分	45分	50分	75分	80分
実施校	1校	2校	1校	1校	1校	1校

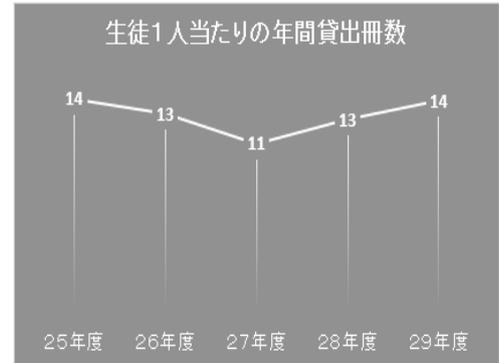
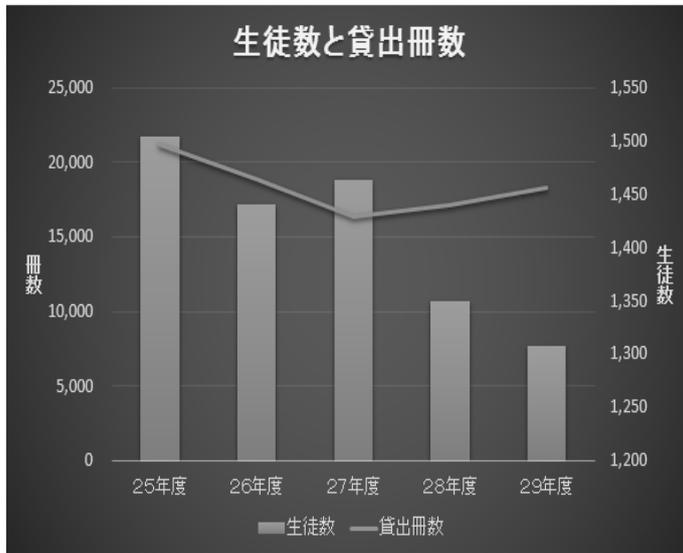
【ポイント】全小学校で「日課表」の中で定めて行っている。



市内小学校学校図書館 人気本・分類からの特徴

1年生	●絵本や文学本を多く読む。
2年生	●絵の鑑賞から文学へ。
3年生	●工作、図鑑など調べ学習に使う本を借り始める。
4年生	●妖怪大図鑑など、更に踏み込んだ調べ学習(知りたいと思う気持ち)の本を借りるようになる。
5年生	●熟語、ギネスといった、社会(世の中)からの情報を調べようと思うようになる。
6年生	●小説への移行時期。

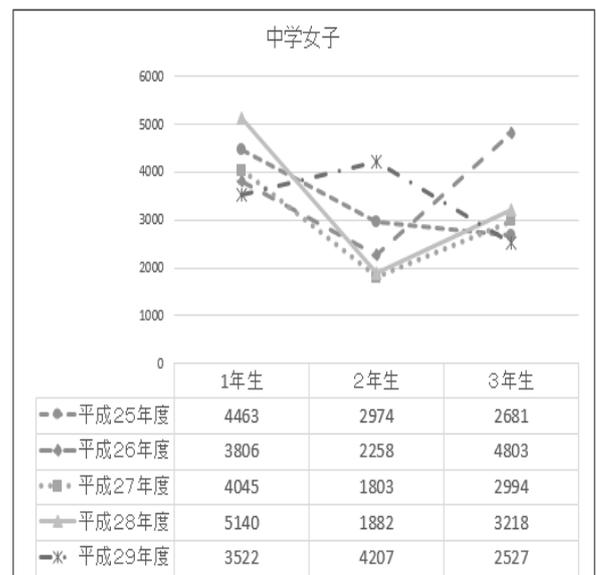
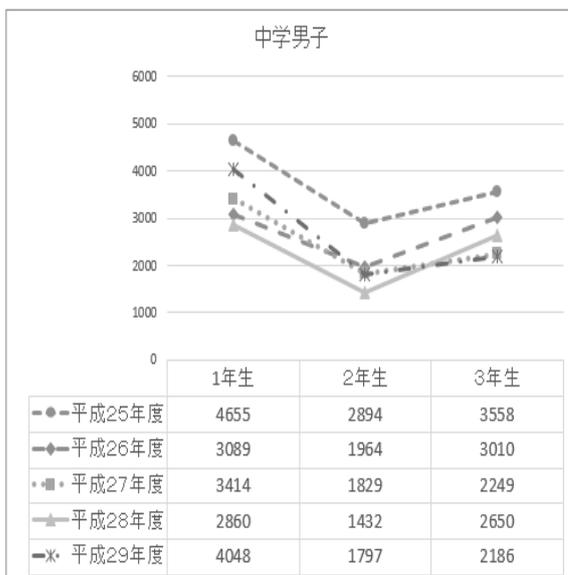
市内4中学校における学校図書館



【ポイント】生徒数の推移と貸出冊数の推移は比例していない。

→ 1人当たりの貸出冊数の推移は平均的である。また中学生は、学校図書館以外の「自分が好む本」を読むことも考慮する必要がある。

市内4中学校図書館活用状況(男女別)H25～H29年度

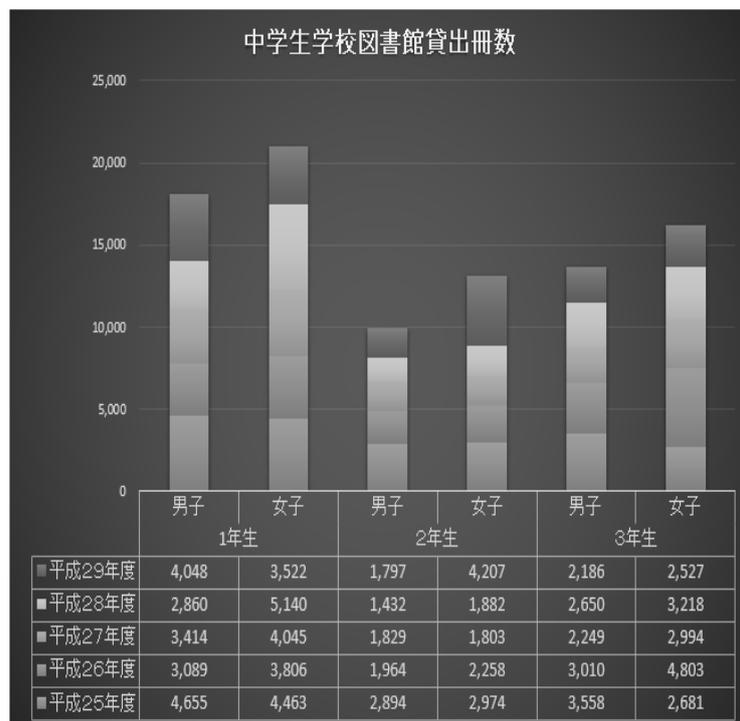


【ポイント1】中学生男子は全体的に2年生が低い。

→ 要因は？

【ポイント2】中学生女子はH29を除けば、比較的男子と同じ傾向で2年生が低い。

市内4中学校における学校図書館貸出冊数



【ポイント】

- ・このグラフからは、学年・男女別及び年度における貸出状況が確認できる。
- ・学年で見ると、1年生をピークに、2年生で下がり、また3年生で増えるV字傾向である。

- ・男女比では女子が多い。特にH29・2年生は差が顕著。
- ・年度で見ると、H26、H28に伸びが見られる。

市内4中学校2年生学校図書館 人気本

	A中学校	B中学校	C中学校	D中学校
1位	「@ベイビーメール」 (山田悠介)	「93番目のキミ」 (山田悠介)	「見る・知る・味わう」 「百人一首」手帖 (吉海直人)	「空想科学読本/6」 (柳田理科雄)
2位	「学年ピリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話」 (坪田信貴)	「Xゲーム」 (山田悠介)	「O型自分の説明書」 (jamaïs jamaïs)	「空想科学読本/2」 (柳田理科雄)
3位	「親指さがし」 (山田悠介)	「君の臍臓をたべたい」 (住野よる)	「空の君へ」 (和泉 絢)	「空想科学読本/17」 (柳田理科雄)
4位	「モモ」 (ミハエル・エンデ)	「僕はロボットごしの君に恋をする」 (山田悠介)	「本を守ろうとする猫の話」 (夏川草介)	「空想科学読本/3」 (柳田理科雄)
5位	「5分後に意外な結末/5」 (編集人/川畑 勝)	「5秒後に意外な結末」 (瀬戸ハル)	「一番星のキミに恋するほどに切なくて」 (涙鳴)	「空想科学読本/16」 (柳田理科雄)

「空想科学読本」とは漫画、アニメ、特撮で描かれるさまざまなSFヒーロー・怪獣・各種キャラクターのSF設定から、時にはライトノベルや昔話などの作品までも「科学的」に検証しており、マニアに限らず一般読者にも受け入れられてベストセラーとなり、シリーズ化している。

市内4中学校における朝読(あさどく)の実施状況



1週間における朝読書実施回数	5回
実施校	全校
朝読書における1回の実施時間	10分間
実施校	全校
朝読書における1週間の実施時間	50分
実施校	全校

※読む本は、
家庭からの持ち込みも可能。



【ポイント】全中学校で「日課表」の中で定めて行っている。

市内県立3高等学校(岡谷東高等学校・岡谷南高等学校・岡谷工業高等学校) 学校図書館利用状況



(参考)

文部科学省によるH29.11.2開催
「子供の読書活動推進に関する有識者会議
(第4回)」議事録から

「(略)高校生の割合が出ており、(略)本を読むとき、どのように入手していますか」という問いについては、書店購入が76.8、図書館が57.1、ネットが28.6、学校図書館が48.2、電子書籍等については10.7%という割合になっておるところです。」

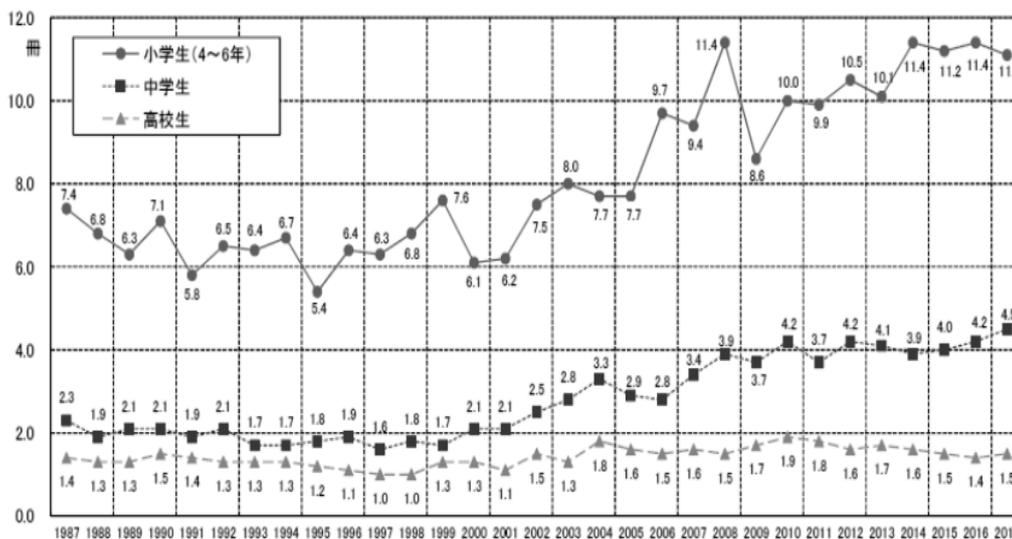
(略)

「高校生の不読には読書習慣がそもそも身に付いていない部分と、生活時間や学校での特性など、高校生という年代の特性に応じた読書活動の2点が課題解決の視点として挙げられているかと思えます。」

資料

※図書館から借りた本だけではありません。

過去31回分の5月1か月間の平均読書冊数の推移



2017年5月1か月間の平均読書冊数は、小学生は11.1冊、中学生は4.5冊、高校生は1.5冊になっています。

公共社団法人 全国学校図書館協議会「第63回学校読書調査」より

ステージ毎の事業資料

主な活動内容

※第2次岡谷市子ども読書活動推進計画冊子p.11 参照

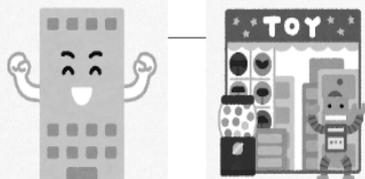


(1) 家庭における子どもの読書活動

・平成17年度～ファーストブックプレゼント事業・平成22年度より、毎月第3日曜日の「家庭の日」を「うち読でエコ読」

(2) 図書館における子どもの読書活動

- ・ボランティアの協力を得た「おはなしの森」*や乳幼児向けの「ちいさなおはなしの森」「としょかん子ども読書まつり」
- ・毎月、テーマブックコーナー設置や平成23年度に作成した岡谷市独自のブックリストの本の紹介
- ・平成25年度～学校との連携により「おかや子ども読書会議(市内全11小中学校正副図書委員長による)」の実施
→ 2018年度は8/3開催。テーマ「活字の活性化について」(予定)



岡谷市HP掲載中

(3) 公民館・こどものくに等における子どもの読書活動

- ・こどものくにでは、主に0歳から3歳の子どもの保護者に対し、おはなし会「おはなしたまご」や「おおきなおはなしたまご」*を実施
- ・イルフ童画館では、「絵本ライブラリー はらっぱ」に絵本や雑誌を設置し、幼児から小学生を対象に絵本の読み聞かせ会「おはなしはらっぱ」を実施

こどものくに

「おはなしたまご」

平成29年度実施状況
(こどものくに利用者数: 34, 536名)

毎週土曜日 11:00~

※左:大人、右:子ども

	1週	2週	3週	4週	5週	計
5月		12・16	4・6	5・7		21・29
6月	3・2	8・11	8・10	9・12		28・35
7月	8・13	7・7		5・6	12・12	32・38
8月	4・5		5・6	10・12		19・23
9月	5・7	8・10		7・8		20・25
10月		5・8	12・16	7・9		24・33
11月		5・7	11・13			16・20
12月	6・8	5・5	7・7			18・20
1月		7・10	11・15	6・5		24・30
2月	4・6	19・16		9・10		32・32
3月	5・8	11・17				16・25
計				大人250人 子ども310人		計560人

「大きなおはなしたまご」
(第3金曜日実施) 延べ参加者209名



(4) 保育園等における子どもの読書活動

- ・保育園には昭和60年から、幼稚園には昭和63年から「保育園幼稚園親子文庫」を開設し、毎年絵本を配本
- ・保育園では、「絵本タイム」として日常的に絵本の読み聞かせ



保育園

■市立岡谷図書館から市内保育園のアンケート結果 <アンケート内容>



質問①「絵本タイム」は毎日、若しくは定期的に行っていますか？

- すべての園で毎日実施

質問②「絵本タイム」を行っている場合は、主な時間帯や内容などを教えてください。

- 朝や昼寝前などに10~15分程度実施

質問③平成25年度から29年度までの5年間で「絵本タイム」について変えたことや変わったことがあれば回答ください。

- 特になし

質問④その他、平成25年度から29年度までの5年間における「園児を取り巻く読書環境の傾向」などがあればご教示ください。

- 絵本の読み聞かせの大切さを伝える機会を増やした。また、親子文庫担当の保護者、保護者会役員へ親子文庫の見直しやアピールを依頼したところ、昨年度は貸出冊数が増加した。今後はこの思いの維持について考えていきたい。
- 子どもの話から、絵本を借りていっても子どもは見ているが「読み聞かせ」をしている家庭は少ない様子である。
- 子どもが興味を示す本が幼いと感じる。(年長が「ノンタン」を読むなど)
- 読み聞かせ時間を短くしたいがためか、保護者も絵の多い本、文字の少ない本を選ぶ傾向にある。
- 子ども達は保育園で絵本を毎週借りていくが、「家で読んでもらわなかった。」と持ち帰ってくる子が多くいる。
- 保護者により意識に大きな差があるためか、子ども達の姿にも絵本が好き、関心がある子、無い子と差があることを感じる。
- 保護者にとって、絵本貸出の当番が負担になってきている。
- 絵本に集中できない子どもが増えてきているように感じる。
- 保護者会図書担当役員が「ぬり絵」を用意するなどの工夫をしてくれた。保護者の意識にも温度差がある。

(5) 学校における子どもの読書活動

- ・平成11年度から、全小中学校に市費による学校図書館指導員*を配置
- ・各学校の特色ある図書館運営や蔵書構成により、各校の資料の共有化
- ・全小中学校において「朝読書」*が実施

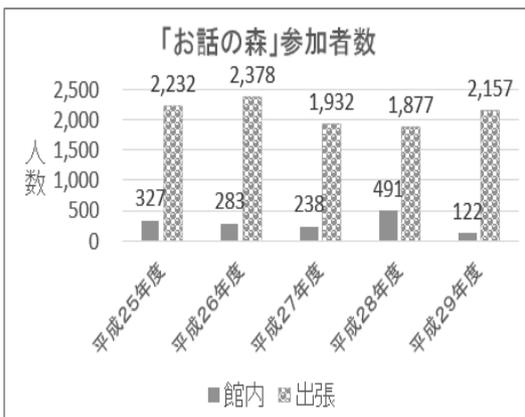


(6) 読書活動団体の活動

- ・図書館をはじめ、各施設、各地区における読み聞かせなどを実施(※郷土学習館など)



郷土学習館



●郷土学習館(長地柴宮3-9-3)

郷土出身のすぐれた先人等の事蹟や、現存する資料等を展示し、先人の生きざまを学ぶことを通して、現代社会に生活する我々大人や次代を担う青少年が望ましい人間の在り方を探求する学習室を設け、地域住民が自主的に取り組む生涯学習の場。

「お話の森」= 保育園児を対象に行う読み聞かせ事業

※「館内」のほか、1人でも多くの園児が本に親しめるように保育園へ「出張」= 出向している。